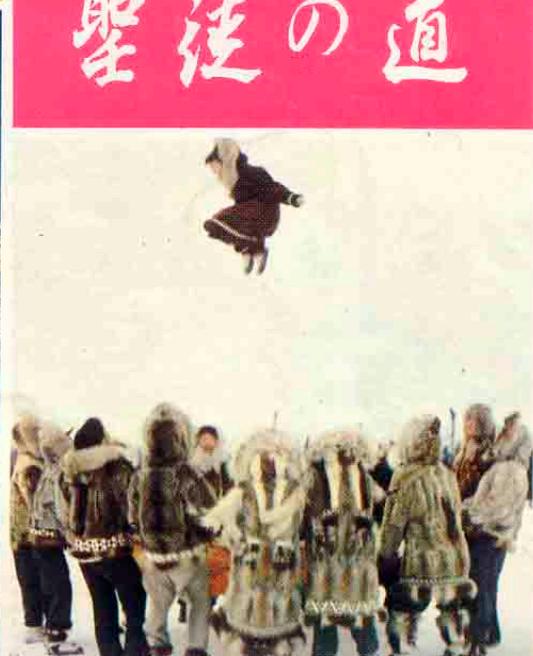




1969 **6**

聖徒の道

アラスカにおける教会





心の糧

十二使徒評議員会補助
スターリング W. シル

水は宇宙にあまねく見られる要素であって、生命の象徴である。イエスはよくそれを用いて、ご自身の神性について証をされた。清い水はまた福千年に先立つ地球更新の神秘の一つとなるであろう。主は言われた、「不毛の砂漠の中に……焼けたる地はもはや湿いなき土地にあらざらん。」(教義と聖約 133:29) 水はまた清さの象徴でもある。悔い改めの水によりバプテスマを受けて清められ、キリストの贖いの犠牲によって、罪を洗い流してもらわねばならないことをイエスは教えておられる。

地の面を、実りある美しいものとするために、神は地下に大いなる水の源と隠れたる川を備えたもうた。同じように、この世には、見えざる偉大な霊的力があって、我々の霊に活力を与え、生活を美わしく、楽しいものにしてくれる。

我々が、己の信仰に全く従順で、正義を愛する時に、神は我々の心底にひそんでいるこれらの能力に触れたまい、生活を浄化する偉大な霊の力を放ち、我々を御前に永遠に昇栄させたもうのである。

— も く じ —

予言者のことば

真理は自由を得させる……………大管長 デビド O. マッケイ…………	281
アラスカにおける教会……………エリーナー・ノウルズ…………	283
救い主の愛は聖なる愛である……………リード H. ブラッドフォード…………	287
日曜学校	
手を携えて……………マックス B. エリオット…………	290
系 図	
系図探究の新方式ジャイアント (GIANT) 方式について……………	294
扶助協会	
この世でなければ永遠に……………ハロルド B. リー…………	295
管理監督会ページ	
証……………ジョン H. バンデンバーグ…………	298
若人のページ	
世のわずらいをはなれて……………ウイラード・ミット・ロムニー…………	300
神 権 の 職……………リチャード O. カウアン…………	302
伝道部長メッセージ……………	305
ローカル・ニュース……………	306
子供が問いはじめる時に……………リチャード L. エバンズ…裏表紙	
……………	

子供のページ

はだかの王さま……………ハンス・クリスチャン・アンデルセン…………	73
やまあらしのポリーちゃん……………マージョリー・ハミット・ガードナー…………	76

今月の表紙

今月の表紙はアメリカ合衆国最北部に位置し、5,000人の末日聖徒の住むアラスカの風景です。

上段左：マクニール川で鮭とりに熱中しているひぐま

上段右：銀鮭を持ちあげているアラスカの少年

中段左：アンカレッジの北方マタヌースカ谷のひっそりとした農場

中段右：氷河の溶けはじめるジョージ湖

下段左：アンカレッジ近辺の冬景色

下段中央：エスキモー一人に人気のあるスポーツ、ブランケット・トス (人を毛布にのせてほうり上げる)

下段右：アラスカ中央部を走るデナリーハイウェイ近くに住むトナカイ。



真理は

自由を得させる

大管長 デビッド O. マッケイ

自由、特に個人の自由は真理に従うことによりもたらされる。およそ二千年ほど前、ピラトは「真理とは何か」と尋ねた。この質問は今なお一般にはよく答えられていないが、我々は真理が何であるかを知っている。

真理について学ぶ人々は次のように言っている、「真理とは事実と一致するものであり、違うことなく、不変で、正確なものである。抽象的な意味において真理は、事物のあるがままの姿である」讚美歌 141 番の中で、我々は「真理は何と

いば」と歌っており、また「世にある宝にて、一番貴き宝」と答えている。

¹¹真理はあらゆるものの本質である。教義と聖約の中に「真理とは、事物の現在あるがまま、過去にありしまま、未来にあるがままの知識なり」（教義と聖約93：24）と記されている。イエスが、自分を信じた人々に向い、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」（ヨハネ8：31～32）と言われたのは、非常に意味深いことである。それは自由、特に個人の自由を意味している。

良心は必ずしも真理への安全な導き手ではない。しかしながら、キリストに従い続ける人々、キリストを信じて、その御名を受ける人々、バプテスマを受けて新しい生活をする人々は、キリストの「みたま」の導きだけでなく、按手礼の後に、神会の一方である聖霊の特別な導きと靈感をも受けるのである。

霊的であるとは、自己に打ちかつこと、および神との交わりを知ることである。霊性は人に、困難に打ちかつさらに大きな力を得させる。人間のまだ知られていない能力とその心を広くしてくれる真理を知ること、人生の最もすばらしい経験の一つである。

「正直、真実、貞潔、慈善、高德なるべきこと……すべての人に善を行なう」ことなどは霊性を高めるものであり、人の最高の財産である。それは人の内に神より与えられた最高、無上の賜であり、人を万物の王とならしめるものである。

予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた勧告と約束は神から出たものである。「……絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如くに汝をうるおさん。聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらるることなく永遠に汝に流れ込まん。」（教義と聖約121：45～46）

このことは、権能ある人によってバプテスマと按手礼を受け、その後聖霊が絶えず伴侶となるような生活をする人々に対する確かな約束である。偽りや見せかけでなく真心から、その導きを絶えず求める人々は真理を知り、真理は彼らに自由を得させるであろう。

我々の問題が霊的なものであらうと、この世につけるものであらうとも、我々が持っている知識は、一生懸命努力してさらに得られる知識に較べるとほんのわずかなものである。

これは我々が学ぶごとく永遠の真理である。知識の泉は、この世の器では汲み尽すことができない。

我が愛する兄弟、姉妹よ、私は義しい生活を送る人生哲学があることを知っている。我々は、その哲学により、霊が高められ、人が達成し得るあらゆる可能性、すなわち愛する救い主が人に望みたもう完成へと導かれて行くのである。

この世の幸福と楽しみの安易な道を求める若い人々は、高い代価を払わなければならない。彼らは縛られて、罪の奴隷となるであろう。また彼らが求めた幸福は、その心中で灰じんと化してしまうにちがいないのである。

救い主は放蕩息子の譬え話の中でなんとすばらしい教訓をお与えになったことであろう。

あの放蕩息子には、名声と良い家庭環境、人生の真の喜び楽しみの機会と良い仕事があった。しかし、彼はついに父の富を兄と分けてもらい、自分自身の幸福を求めようと決心した。彼は自由になるはずであって、もはやこれ以上、父に束縛されたくはなかった。

私はまた、かつて私に手紙を書いてくれたある若い女性のことを思い出した。「私は16才です。父は私を理解してくれませんが、義母は外出させてくれません。私はほんとうに外へ出たいのです」彼女は家庭に縛られていららしていた。父親の目には、彼女はまだほんの子供であった。彼は、娘が一人前の女性にならうとしており、自分の翼を試したがっていることを理解していなかった。

私はあの放蕩息子も同じように感じたと思う。よく知っているように、彼は「父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください」と言っているからである。彼はその分け前をもらい、真理の代りに楽しみを求めて、今日なら何百万にも相当する財産を使い果たしてしまっただけで、お金がある間は、友だち気どりのものが多くいた。彼は酒を飲んで楽しみが得られると思い、自由奔放な生活を送った。自由であると思っていたが、彼は奴隷のようになりつつあった。そして彼は束縛を受けており、少しも幸福でないことを悟ったのである。

もしも自由でありたいと望むなら、真理の道すなわち永遠の喜びに到る道に従いなさい。私がここに述べてきた意味において、真理に従うには勇気が必要である。己れに忠実であって、正しいと思うこと、また正しいとわかっていることを行いなさい。

我々すべてが、人生の業に直面する時に、そのような勇気が得られるように祈る次第である。

アラスカにおける教会

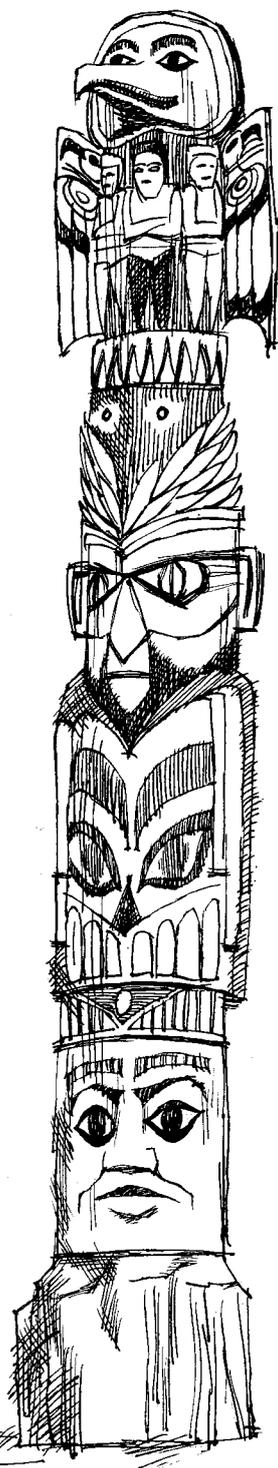
エリーナー・ノウルズ



1910年9月のある日の午後、この地方はとてもひどい北風に見舞われていました。物見高い抗夫、狩人、漁師、見物人が、ベーリング海の海岸に集まり、これから起こる見なれない事を見ようとしていました。2時頃、末日聖徒イエス・キリスト教会の大祭司で90歳になるE. G. キャノン博士が進み出、集まった人々に教会について話しました。話し終えると、キャノン長老は、全身白衣をまとったA. W. アンソニー夫人を導いて、激しく波が打ち寄せる海へ入り、彼女にバプテスマを施しました。

1967年12月、同じようなことがアラスカのハイダールの近くで行なわれました。カナダのブリティッシュコロンビア州ステewartに住むノラ・マックレーは福音に関心を持つようになり、バンクーバー B. C. にあるアラスカ・カナダ伝道本部に手紙を送って、資料を求めたのでした。アーザ A. ヒンクレー伝道部長の夫人、エルマ T. ヒンクレー姉妹と数回文通を続けると、マックレー姉妹はバプテスマを受けたいと頼みました。何週間かたって、ようやく宣

北米大陸の最高峰マッキンレーは、真夏でも深い雪と氷におおわれている。



教師が2人、ステewartに旅行できるようになりました。宣教師は三日間マックレー姉妹と話し合った結果、彼女にバプテスマを受ける資格のあることがわかりました。けれども、近くの湖は45センチもの堅い氷が張っていて使えず、バプテスマをする場所がありませんでした。近くの人々はみな、その若い女性がバプテスマを受けたがっていることを知っていました。そして、日曜日の朝、60キロも離れた湾のハイダーという町に住んでいる人がマックレー姉妹に電話をかけてきました。

「こちらへいらっしゃったら、ちょうど今、潮が干いていて、海でバプテスマができますよ」という電話でした。マックレー姉妹、二人の宣教師、ステewartの町の人たちは車に飛び乗ると、列をつくって、吹きすさぶ雪の中をハイダーへ急ぎました。海に近づくに従って、吹雪は弱まりはじめ、暗い空が開けてきました。そして、雲の間から太陽が顔を出し始め、ノラ・マックレー姉妹はバプテスマを受けました。バプテスマが終って、人々が帰途につくと、吹雪はまた激しくなりました。

教会のことを学んだ多くの人々のうち2人だけが改宗し、アメリカ合衆国第49ステーク部の凍るような水の中でバプテスマを受けました。

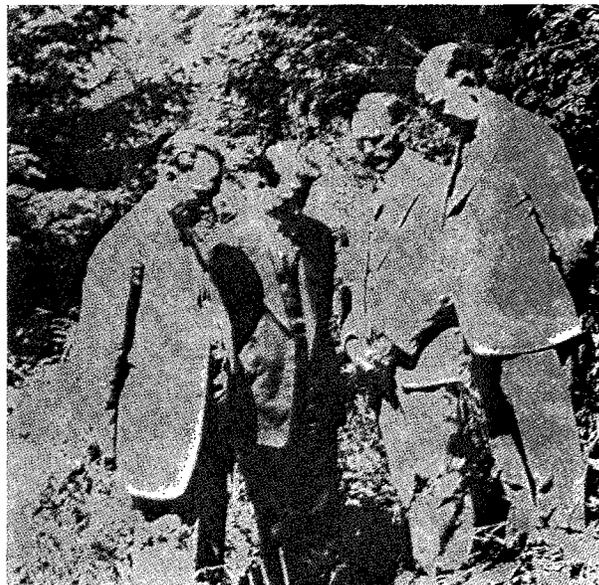
広大な土地で人がまばらにしか住んでいないアラスカは驚異的な成長をとげ、それとともに教会も発展しました。1935年には11人、1950年には450人だったのに対し、現在は5,000人の末日聖徒がアラスカに住んでいます。アラスカ・ステーク部はアンカレジの北方500キロ（車で12時間）のフェアバンクスまでわたり、3,300人の会員がいます。残る1,800人の会員は伝道部に所属しています。地域的に言えば、アラスカ・カナダ伝道部は教会で一番大きな伝道部の一つです。アラスカと、カナダのブリティッシュ・コロンビア州とユーコン州を加えると280万平方キロメートルにも及びます。

アラスカではどんな人が教会員になっているのでしょうか。抗夫、大学教授、教師、学生、辺境を飛ぶ飛行士、軍人、政府職員、建築家、事業家、サラリーマン、漁師、狩人、農夫、主婦、子供など、あらゆる分野に末日聖徒が見られます。アラスカの人々には、一般に開拓者精神が旺盛です。だれでも、アラスカへ行くと、現在も開拓者がいることに気づきます。アラスカとアラスカ人には、緊迫とか目的とか冒険があるといった感じがします。

ゴールドラッシュが何千人もの夢多き人々を引きつけた19世紀も、終末のわずかな間を除いて、開拓

者はまれにしか来ませんでした。200年以前には人が住んでいる地域で、発見もされず、地図にもものっていない所は北アメリカ大陸の北西海岸だけでした。そのころの地図は、北カリフォルニア海岸で終っていて、アジアとアメリカはつながっているかどうかすら知られていませんでした。

1731年ロシア帝国ピョートル大帝の命を受けたヴァイタス・ベーリングは、現在彼の名がついている海峡を通り、二大陸はつながっていないことを証明しました。ベーリングは1741年に2回目の航海をして、現在アラスカとカナダの国境線から15キロも離れていないエライアス山の近くに上陸しました。新しい地は、アメリカ大陸であって、他の島でも、亜大陸でもないことがわかり、ベーリングはこうして西からの探険でアメリカを発見し、証明した最初の人となったのでした。



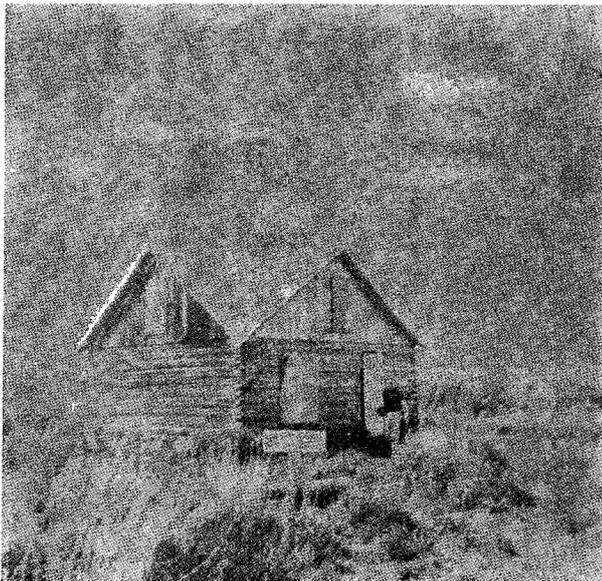
1928年6月6日、ジュノーの近くにて、アラスカは福音を宣べ伝える地として祝福され、聖別された。右から二番目、奉獻の祈りを捧げるヒーバー・ミークス長老、出席者は他にアルビン・イングレストド、ジェームス・ジュド、ロウエル・ブラウマン。

それから50年もしないうちに、ロシアから北アメリカへ最初の移民団が到着し、コディアク島のスリーセイーンツ湾に探険を始める錨がおろされました。ロシアの人たちは大きな河に沿って交換所を設け、帝国政府のために、新しい国の毛皮を開発しました。まもなく、英国、フランス、スペイン、アメリカの船も続々と到着し、豊かな毛皮を求めて、北の国の奥深くへと探険しました。1867年になると、国内にオットセイやあざらしはいなくなりました。そしてこの貴重な資源の枯渇に伴い、ロシアの皇帝ツ

アーはその土地を売ることになりました。

1867年3月30日、ロシアとアメリカ合衆国の間で条約にサインが交わされ、一年後、720万ドル(邦貨26億円)を支払うため下院が召集された時に疑い深い議員たちは、その領土を「冰山」ときめつけました。それから30年間アラスカは、もっぱら「セイウチと北極熊しか住めない氷と雪の無用の長物」と言われていました。

1897年、シアトルの新聞はこぞって一面に、「金が1トン」という見出しを出しました。カナダのユーコン州のクロンダイクで金を探し当て、人々が湧きかえるその町にS. S. ポートランド号が人々を乗せて到着しました。そして、アメリカ中のヤマ師がアラスカとカナダの金鉱探しに向かいました。ある人は途方もない金持ちになりましたが、大部分の人は金を見つけられませんでした。20年の間に、立



アラスカのケナイにある古いロシアの礼拝堂は19世紀のロシア居留地の遺物である。

派な家々もすっかり貧弱になり、再びアラスカは忘れられました。けれども、この土地の本当の価値はまだ残っていました。20世紀も中葉になると、進取的な人や会社が、石油、鉱石、水力発電、天然ガス、森林などアラスカの巨大な天然資源の開発にかかりました。

さらに第2次世界大戦により、アラスカに対して戦略的な意味で新たな関心が寄せられるようになりました。今日、ここにいくつかの軍事的に重要な施設が設置されています。

戦後何年かがたつまで、アラスカの教会の成長は

ゆっくりとしたものでした。たぶん知られているうちで最初にアラスカへ行ったのは金を求めて行ったE. G. キャノン博士でありましょう。彼は1871年に改宗し、アラスカ中を旅行する間、「車の上の礼拝堂」を開き、セワードペニンストラ地方とノーム地方の鉱山で集会を開きました。キャノン博士はノームで、彼に福音を教えたK. N. ウィニィに会い、1902年6月25日にベーリング海でバプテスマを施しました。そしてこの2人は、1910年11月キャノン博士が死ぬまで教会の非公式の宣教師として働きました。

アラスカ地方は1925年頃まで北西ステーツ伝道部の管轄下におかれ、後にアラスカ・カナダ伝道部に属すようになりました。1913年最初の宣教師がジュノーに送られ、その後数人がアラスカを訪れましたが、成果はあがりませんでした。

その後1928年に、北西ステーツ伝道部のウィリアム R. スローン部長は、ヒーバー・ミークス、アルビン・イングレステッド、ジェームス・ジュド、ロウエル・プラウマンの4人の宣教師を送り、アラスカに地方部をおける状態かどうかを調べさせました。ユタ州カナダ出身の短期間宣教師ミークス長老は、次のように書いています。「次の日の朝(6月6日)、私たちはお互いをかたく結び合って、町や湾の見える山に登ると、美しい場所を選んで立ち、地を祝福し、福音を宣べ伝える場所として聖別したもうようにとの祈りを捧げました……この祈りはとても私たちにとって感銘深いもので、主が私たちを祝福したもうていることを感じました」

宣教師がホテルに帰ると、新聞記者が訪ねてきていて、会見を申し込みました。次の日、長老たちは新聞社の編集長にモルモン経を贈りました。すると長老たちは、商工会議所の昼食会で話をするよう招きを受け、その話の全容が新聞に掲載されました。長老たちがアラスカを去るまでに、1,300冊ものモルモン経が売れました。

1928年8月に、プラウマン長老は、伝道活動は順調で特にインディアンの間でめざましいと書いています。「インディアンは、彼らの血統を誇りに思っています。そしてその理由を私たちは知っています。彼らは先祖のことを学ぼうと心を寄せているのです。彼らは私たちの言うことをじっと聞いていてそれに満足しているようでした。このインディアンには、先祖にキリストが現われたという伝説があります。この伝説は、メキシコのアズテック人のとよく似ています。

昨日、私はインディアンが数人集まっている家を訪ねました……彼らは普通の宗教を認めることができず、ある女の人だけはだれかがやって来て先祖の宗教を説明してくれると言いました。その時、私が行ったのです。姉妹の一人は、私がてっきり神から送られて来た者だと信じました。そして私は今日の午後、集会の約束をしたのです」

1920年代から1930年代にかけての宣教師活動はまばらで、アラスカのわずかな会員は、おもに自作農を営む人々とアラスカへ旅する前に教会員になった夢多き人々でした。その一人に、ブリガム・ヤング大管長の曾孫にあたるワシントン D. C. のステewart C. キャンベルがいました。キャンベルは、1935年にアンカレッジの北のマタナスカ谷に入植しようとしていたミシガン、ウィスコンシン、ミネソタの200家族の財産支配人をしていました。キャンベルは次のように報告しています。「森を取り払い土地を耕す仕事は昔の開拓者のように手おのや手車ではなくダイナマイト、トラクター、その他近代的な機械で行なわれますが、人々は開拓者と同じような経験をしなければならぬことがわかります。開拓者時代の話をいつも聞かされてきた私にとって、この開拓者の移動に何らかの形で携わることは、しごく当然のことのよう思われます」

1938年7月プレストン・ニブレー、ノースイースト・ステーツ伝道部長夫妻はアラスカを旅行し、7月10日、アラスカで最初の支部、フェアバンクス支部を約20人の会員で組織しました。その夜、100人以上の訪問者と求道者で一般集会はうずめられました。後に5人の人がやって来て、彼らはモルモンで何カ月も市にいたけれども、他にモルモンがいるとは知らなかったと言いました。

アンカレッジでの最初の一般集会は、1941年3月23日に開かれました。その次の週、アンカレッジの北の基地に駐留している従軍牧師フォート・リチャードソンは、レスター F. ヒューレット、クリフトン B. トーマスという二人の宣教師を選んで、基地の集会を司会させることにしました。この時、アラスカに住んでいる末日聖徒は約300人でした。

これを機として、それから20年間には、急速ではないにしろ着実に教会員が増えました。アンカレッジに定着した会員の多くは、アラスカの宣教師として働いた末日聖徒か、駐留している陸軍兵の末日聖徒でした。さらに、伝道事業は実り多いものになってゆきました。この改宗成功の最大要因は、アラスカの人々にあります。概して、アラスカに開拓者と

して来た人々は友情が厚く、おおらかで、あっさりとした人々なのです。人々はきびしい気候と社会から孤立しているため、結束しているのです。それで互に結束し、活気があふれ友情の厚い会員たちを容れた教会からつかかわされる者の言葉に人々は喜んで耳を傾けたのでした。

アラスカの人口の約六分の一は、エスキモー人、アジア人とインディアンの開拓者の子孫です。1964年に、特にこの人々に伝道するため、宣教師が召されました。前アラスカ・カナダ伝道部長のステワード・ダラント長老の言葉によれば、「建築宣教師、フルタイム宣教師、補助組織の指導者、神権指導者などすぐれた指導者により、伝道部ではレーマン人のバプテスマが盛んに行なわれました」インディアンのセミナーが開かれ、多くのインディアンの子供たちがインディアン職業紹介制度に参加しています。

この広大な州には舗装道路がほとんどないので、伝道には旅行が一番問題となっています。それで飛行機を使うことが最も経済的で早いので、アラスカでは、人口に比較して個人の飛行機の所有数がどの州よりも多くなっています。近代的な空港から飛び立った飛行機が、川や湖や湾、それに凍った湖やぬかるみの平原、砂州、大平原に着陸しています。このようにして、遠く離れた島々にも教会の会員や支部を見ることが出来ます。

コディアク熊と世界で最も良い漁場で有名なコディアク島には、主として軍人とその家族の170人近くいる強い支部があります。

州の南東にあるアネット島には24人の会員がいます。数年前、島はインディアンのものでインディアンに他の宗教は必要ないと主張した僧侶によって、宣教師はアネット島を追われました。けれども、インディアンの酋長の娘と結婚したジェームス・ギルムア支部長は、アネット島の会員たちを活発にさせ支部長の妻と彼女の父の力により、再び宣教師の入島が許されました。宣教師は戸別訪問を許されませんが、会員たちが友だちを家庭に招いて、そこで長老たちが教えます。

首都アンカレッジとフェアバンクス市で、教会員は急速に増加しました。1961年8月13日、1850人の会員を擁してアラスカステーク部が組織されました。そして、5年後、アンカレッジに美しいアラスカステーク・センターが献堂されました。今日ではステーク部が組織された当時の約2倍の会員をよう

(297ページにつづく)

救い主の愛は 聖なる愛である

リード H. ブラッドフォード

あなたは、これまであなたが神の御心を実践して成長することを何よりも喜んでくれる人に愛されたことがありますか。これはその人があなたを、天父なる神の子供として認めていることなのです。その人はあなたの中に神聖な要素があり、それが多くの可能性を持っていることを知っています。救いと永遠の生命は神の原則の上に置かれています、あなたがその原則を学ぼうとする時にその人は助けてくれます。その人はあなたが誤りをおかした時にも許してくれます。その人の目的は、あなたが未熟だからといって「もっとやりなさい」としいることにあるのではなく、自分の失敗をあなたのせいにするでもなくて、あなたを進歩させることにあるのです。あなたが何か罪や間違いをおかしてその人の許しを求める時、その人は心からの許しを与えてくれます。あなたがもっと賢明に行動したいと思う時にはその人を模範とすればよいのです。これが救い主イエス・キリストの愛し方です。イエスの愛を説明するたくさん例があります。次の聖書からの引用を考えてみましょう。

……「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか。」「いましめはあなたの知っているとおりでである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな、欺き取るな、父と母とを敬え。』すると彼は言った、「先生それらのことはみな、小さい時から守っております」イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた。「あなたに足りないことが一つある。帰って持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば天に宝を持つようになる。そして私に従ってきなさい。」すると彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立去った。たくさん資産を持っていたからである。それからイエスは見まわして、弟子たちに言われた。「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう」（マルコ 10：17、19～23）

ほかの場所でイエスはこう言っておられます。「……およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし」（教義と聖約 58：42）

救い主が折にふれて言っておられるように、私達に対する御子の一番の願いは、私達が御子の息子、娘となって、御子が経験したと同じ平和、やすらぎ、成長、実践そして喜びを経験することができるようにということなのです。感受性のするどい人達にとってこの種の愛は神よりの靈感にもとづくものです。次の話の中からその愛がどのように行なわれたかを考えてみましょう。

ジョニー・リンゴー

私がシェンキン氏の旅館のベランダに腰を下してナラブンジを訪ねようかどうしようかと思っていた時に、シェンキン氏がこう忠告

してくれました。

「ジョニー・リンゴーに頼んで、あなたのほしいものを買ってもらいなさい。彼なら四倍以上も手数料がもらえるだろうな。物の価値も、取り引きの仕方もよく知っている男ですよ」

「ジョニー・リンゴーだって？」とベランダの階段の所にいた、丸々と太った少年がその名前をはやしだして、自分のひざをしっかりと抱きかかえながら、かんだかい声で笑いました。

「やめなさい」と少年の父親が言ったので笑い声は静かになりましたが、小さな背中がふるえているので、まだ笑っているのがわかりました。「ジョニー・リンゴーは太平洋のこのあたりの商人の中では、一番のやり手なのだよ」この簡単な説明を聞いた少年は息をつまらせて、あぶなく階段からころげ落ちるところでした。近くに立っていた村人達の顔に微笑が広がりました。

私はたずねました。「一体どうしたと言うのですか？ このあたりの人は皆、ジョニー・リンゴーに会うようにと私に言うけれど、結局うやむやになってしまう。いもしない人に会いに行かせたり、ありもしない左利き用のねじ回しを捜しに行かせたりする類のいたずらなのでしょう？ そんな人は実在しないか、または村の伝説上の人物か何かなのでしょうか。私にもその冗談の仲間入りをさせて下さいよ。」

「冗談なんかじゃありませんよ。私達はあなたのために思ってジョニーに会うようにとすすめているのですよ。」

お祭りにあたる5ヶ月前のこと、ジョニーはキノワタにやって来て、自分の花嫁を見つけたのです。ジョニーは花嫁の父親に八頭の牝牛を支払ったのですよ。ただそれだけのことです。

彼が八頭の牝牛という言葉をはかにもったいぶって発音したので私はこの島の非常に珍しい習慣を思い出しました。この島では二、三頭の牝牛で中流の美人が得られ、四、五頭では申し分のない一流の美人を迎えることができるのです。

「おやおや、八頭の牝牛とはね！ 彼女はびっくりするような、すごい美人に違いない。」

「醜くはないですよ」と彼は認め、私の反応に満足してちょっと笑い、さらに言いました。「醜くはないが、身分がないのでどんなに丁寧な人でもただサリタ、と呼ぶだけでした。それに彼女は小さくて、やせていて、その歩き方といったら頭をヒョコヒョコ動かして、肩はまるで自分を隠そうとでもするようにすぼめていたのです。ほおの色はなく、目は細くて、ぱっちり見開いていたこともなく、髪はもつれたモップみたいに顔の半分以上をおおっていました。彼女は自分の影におびえ、自分の声に驚き、大勢の中で話すことも笑うこともおそれていたのです。ほかの女の子達と楽しく遊ぶこともなかった、そんな女の子がどうして男の子をひきつけられるのでしょうか？」

「でも彼女はジョニーを魅惑したのでしょうか？ それはどうしてですか？」

「話しあいの場所になっているテントに行く途中、親類の人達はずっとサリタの父親のサムに早く娘に良い結婚をさせるようにとせきたてていました。彼らはサムに『三頭の牝牛を請求しなさい。そして、花むこが一頭しか支払いそうにないとわかって、二頭支払うように頑張りなさい』と言いました。しかしそうは言っても、サムはこんどのサリタの結婚話に何か悪いことが起こりはしないかととても心配していたので、牛を一頭ももらえなくてもサムは承知するだろうということがわかっていました。ですから花むこを待っている間、彼らは牝牛一頭さえもあきらめて、自分達は何も手に入れ

ることができないかわりにサリタには良いおむこさんが来るのだ、
というふうに考えていました。

その時ジョニーがテントの中へやって来て誰も言葉をかけないう
ちに真直ぐにサム・カルーの所へ行き、サムの手をしっかりとぎっ
て言いました。「サリタのお父さん、私はあなたの娘さんに八頭の
牛を差上げます」サムはジョニーが自分をからかっているのだと思
って、手をふりほどこうとしました。しかしジョニーが手を離そう
としないので、父親や親類の人たちは、彼は気が変になったに違
いから正気に戻らないうちに契約書にサインした方がよさそうだ
と思いました」

「それでジョニーは牛を引渡したのですか？」

「すぐにね。その夜に結婚式をあげて、式がすむとすぐチョー島
へ新婚旅行に出かけて、それから二人はナラブンジの家へ行っ
たきり、私達は彼らに会っていないんですよ」

「八頭の牛をね……ジョニーに会ってみたいくなつたな」私は信じ
られない気持ちで言いました。

「だからさっきから言ってるでしょう。いろいろな意味で、ジョ
ニーに会った方がいいと思いますよ」と旅館の主人はにやにや笑
いました。

私は魚もほしかった野菜も真珠もほしかったので、次の日の午
後自分のボートでナラブンジへ行きました。そこでおもしろいこと
に気がつきました。というのは、私がナラブンジに住んでいるジョ
ニーの仲間達に彼の家へ行く道を聞こうとして彼の名を口にして
も、誰も意味ありげな笑い方やまばたきをしなかったことです。ほ
そりとした、まじめそうな青年に会った時に、彼は私を気持の良い態
度で家に招き入れたので、彼がここの主人だということがわかりま
した。そしてこの人達が笑いのものにするといった気持ちをまったく
持たずに彼を尊敬しているのを知って私はうれしくなりました。

私達はジョニーの家の客間の、竹で編んである椅子に腰かけて、
私が買いたい物について話しました。彼は私を良い漁場へ案内する
ことや、私に野菜を売ること、真珠の取り引きをすることなどを承
知してくれました。それから彼は、私に「あなたはキニワタから来
たのですか？」とたずねました。「ええ」と答えて、私はキニワ
タの人達にジョニーを訪ねるように言われたことを話しました。

「あの島の人達は私のことをそんなに話題にしているのですか
？」

「ええ、あなたの助けがなければ私は何も買えないと言ってい
ましたよ」

彼は静かに笑って「私の妻はキニワタの出なんですよ」と言
いました。

「知っていますよ」

「彼女のことを噂してますか？」

「少しね」

「何て言ってますか？」

「何てって、ただ……」彼の質問に私はあわててしまいました。
「彼らはあなたの奥さんの名前と、奥さんのお父さんの名前とそれ
からあなたがお祭りの時に結婚したことを話してくれましたよ」

「もっとほかには？」彼はまゆげを曲げて、もっと多くのことを
話したでしょうという様子をみせています。

「彼らはあなたの結婚の支払いが、牛八頭だったとも言ってい
ます」私は言葉を切り、それから続けました。私がとても聞きたか
った質問が今こそできるのです。「なぜ八頭も払ったのか皆不思議
がっていますよ」

「あのことを噂しているのですか」彼の目は愉快そうに輝いて
います。かんじんな質問は気にもとめてないようです。「キニワタ
の人達はみんな、八頭の牛のことを知っているのですか」私はうな
ずきました。

「ナラブンジの人達もみな知ってますよ」と満足そうに胸を張
って彼は言いました。

「結婚の支払いについて人々が話す時、いつでも、そしていつ
までもジョニー・リンゴーがサリタに八頭の牛を払ったということが
話題になるでしょう」

これが答えなのかと思うと私はがっかりしました。この神秘的で
不思議なことも、その説明もすべてくだらないものだったのです。
利己的な彼にとっては、とてもスマートで、強くて、利口な人とし
て知られるだけで充分ではなくて、奥さんの買い方で自分をもっと
有名にしたかったに違いないのです。

私は彼がキニワタでは馬鹿者扱いをされて笑われていることを話
して、彼をしょんぼりさせてやりたいものだと思います。

その時です。私が彼女を見たのは、門の所にちらちら光っている
ガラス玉のすだれを通して食卓に果物の入った皿を置きに隣室に入
って来た彼女を見ました。彼女は私の横の若者に愛らしい魅力に
みちた微笑を投げかけて少しの間立止っていましたが、またすばやく
外に出て行きました。彼女は私がこれまでに会った女性の中で一番
美しい人でした。果物を運んで来たこの女性のような美しさを持
っている人はいませんでした。ほかの女性達は今ではつまらない、
平凡な、この世的なものに思えてきました。その女の人には神々しい
愛らしさがあり、同時にその愛らしさは自然の心といったものを感
じさせます。露を含んだ花が、つやつやと輝く黒髪の後ろにピンで
とめられていて、バラ色のほおをいっそう引立てています。肩やあ
ごの線、目の輝きなど、すべてが彼女の申し分のなさを誇らしく語
っています。彼女が立去る時の動作のしなやかさ、優雅さはまるで
女王のようです。

彼女の姿が見えなくなった時、私はジョニー・リンゴーの方をふ
り向きしました。彼はその女性に対する誇りをありありと浮べた目で
私を見ていました。

「彼女に感心しているのですか」と彼は小声で言いました。

「彼女は……彼女はまったく素晴らしい。誰なのですか？」



「私の妻です」

私はぼかんとして彼を見つめました。これは私がまだ聞いていなかったしきたりか何かなのでしょう。ジョニーは八頭の牛でサリタと別のもう一人を買ったのでしょうか。

私が質問をする前に彼はまた言いました。

「あれがサリタです」

「でもキニワタ出身のサリタではないでしょう」と私は言いました。

「サリタはただ一人しかいません」彼は言葉に特別なおもおもしろさを感じさせるような調子で言いました。「たぶん、あなたはキニワタの人達が言っていたようなサリタとは違うと言いたいのでしょうか」

「違いますとも」サリタを見た驚きで私は気転を利かすのを忘れてしまいました。「彼女は平凡でとにかく目立たない人だと聞いていました。キニワタの人達はあなたがサム・カルーにだまされたと行って物笑いにしてますよ」

「あなたはサムが私をだましたと思いますか？ 八頭の牛は多すぎたと思いますか？」私が頭を横に振ったので彼の唇におだやかな微笑が浮かびました。「間もなく春祭りが来ますからサリタをキニワタへ連れて行こうと思っています。彼女はまたお父さんと友達に会うことができます。彼らも彼女を見ることができるわけですが、その時に誰か私達をからかう人がいると思いますか？」

「まさか。でも彼らが噂していた彼女と今の彼女がどうしてこんなに違ってしまったのか私にはわからないのですが」

「彼女がキニワタを去ってから五ヶ月たちますが、その間に彼女を変えてしまうようなことがたくさん起こったのですよ。特に彼女がキニワタを去った日の出来事が」

「つまりあなたと結婚したということ？」

「そうです。しかし何よりも結婚の協定がその原因なのです」

「協定？」

「あなたはこんなことを考えたことはありませんか？」彼は考えながら言葉を続けました。

「自分の夫になる人が父親と会って、彼女を一番安い値段で買うという協定をしたことを知ったなら、その女の人はどんなにみじめな気持ちになるだろうかということ。そして、その後で、女というものはそういうものですが、夫が自分のためにいくら払ったかを自慢するのです。ある者は四頭だと言い、また別の人は六頭だと言うでしょう。一頭か二頭で売られた女の人はどんなふうに感じるでしょうか。私のサリタにそんな思いをさせることはできなかったのです」

「ではあなたは奥さんを幸福にする、それだけのことに前例のない程たくさんのお金を払ったのですか？」

「幸福？」彼はその言葉の意味を確かめるように何度もくり返しているようにみえました。

「私はサリタを幸福にしたかった。そうです。しかし、それ以上のことを望んでいました。」

あなたは彼女がキニワタの人達が知っている彼女とは違っていると言いましたね。それは本当です。いろいろな事柄が女の人を変えます。心の中に起こることも、外に起こることも。でも自分自身をどう考えるかと言うことが最も大きくその人を変えます。キニワタにいた頃、サリタは自分が価値のない者だと思いこんでいました。今では自分が非常に価値のある者だということを知っています」

「それではあなたは……」

「私はサリタと結婚したかった。私はサリタを愛していた……」

「しかし……」私はわかりかけて来ました。

「しかし」彼は静かに最後の言葉を言いました。「私は八頭の牛にあたいする妻がほしかったのです。」

イエスの愛

救い主は私達一人一人の中に天父なる神の息子、娘となる可能性を見ていらっしやいます。

救い主は私達にこの機会を与えるために喜んで犠牲を払って下さいました。

だれも自分自身の可能性を見くびってはいけません。なぜなら、それは贖罪を始めとして、数多くの贈り物を下さったイエスの英知と愛を認識できないという誤ちをおかすことになるからです。

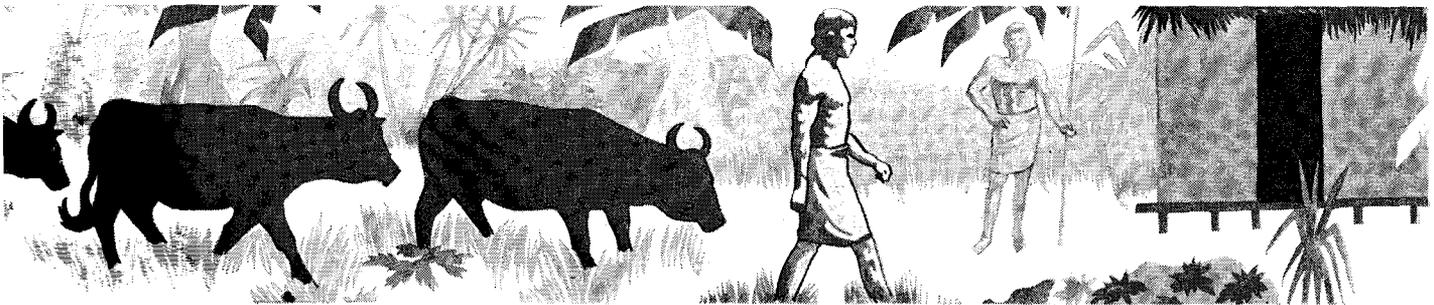
私達もまた、イエスが愛したと同じように、自分自身と隣人を愛することができます。

私はジョニー・リンゴの物語の最後の一行を自分流に変えたいと思います。「私は八頭の牛にあたいする妻がほしかった」と言うかわりに私なら「サリタに八頭の牛にあたいする女性になってほしかった」と言います。

私にとってこれは神聖な愛を意味します。このことは、私が彼女を、夫としての自分の要求を満足させる者としてのみ考えるのではなく、一人の女性として、また天父なる神の子供として、彼女の要求、才能、可能性を同等に考えていることを意味します。私が彼女をそのように愛するなら、私はもっと彼女に靈感を与えることが出来るはず。このように個人個人が愛し合うならば、今やおたがいの生活が結び合され、一人ではできなかったことをも共にやりとげられるようになります。彼らは励まし合うことができます。助け合うこともできます。

全人類に向けて救い主の愛がいかなるものであるかをあらわすことによって、私達一人一人の主に対する正しい認識を最も良く表現できるのです。

(ジョニー・リンゴの物語は1965年にフォーセット出版社が著作権を取得し、ウーマンズ・デー・マガジンの許可を得てここに再録しました)



日曜学校

手を携えて

マックス B. エリオット

サウスイースト・インディアン伝道部のある暑い夏の日のこと、若い2人の宣教師が小型トラックに乗り込んで、美しいアリゾナ砂漠を渡り始めた。

彼らは主の御業を果たしていることに生き生きとした喜びを感じていた。谷を越えた彼らは、小さなつむじ風がよもぎの上にごみの煙突をつくるさまを見た。路傍でナバホ族の若い娘が羊の群れの番をしていた。彼女はあざやかな青色のピロートのブラウスとくるぶしまで届く色彩豊かな長いスカートを手につけていた。宣教師たちは民の上品さに強い印象を受けた。

頼りの小型トラックに乗って彼らはすぐに最初のホーガン——扉と小窓が1つずつある大きな土の山のように見えるインディアンの家——にむかった。遠くからホーガンと地面とを見分けるのは困難である。そのホーガンの方へ歩いて行くと、長老たちは日よけの木につながれている二頭の馬と1台の荷馬車を見つけた。彼らはまた「チャーオー」という、柳



モルモン経の歴史とインディアンの伝説は一致している。

の日よけのある家の中で誰かが美しい敷物を織っているのに気づいた。

宣教師たちが小さな家の小さな戸をたたくと、ナバホ語で入るようにと言われた。この素晴らしいナバホの人たちの間で二年間働いてきた先輩の長老は、訪問して断われた経験が今までにただの二回しかなかった。

長老たちがそのホーガンに入っていくと、「ハ・タアティー」あるいはナバホ語で「詠唱者」もしくは「歌い手」と呼ばれ、白人の間では「まじない師」というあだ名のついている精神面での指導者と目されるナバホの老人が彼らを歓迎した。彼は親切で、長老の話と共に聞くようにと家族を呼び集めてくれた。宣教師たちに上座を与え、家族の者は全員ホーガンの中に丸くすわった。この上座は美しい手織り毛布でおおわれ、地面に作られた席よりもわずかに高くなっていた。その家族は宣教師がモルモン経の話をするのを静かに黒い目を輝かせながら待っていた。

家庭集会はいつもの通り讃美歌で始まり、若い宣教師が祈りを捧げた。それから先輩の宣教師は、モルモン経の話をするために準備した絵を皮かばんから取り出した。その宣教師は、ハ・タアティーのように年を取ったすぐれた知恵の持ち主に教えるにはあまりにも若すぎるため、緊張したおももちであった。その若い宣教師ははるか昔、アメリカに家族を連れて移って来たリーハイについてナバホ語で話し、また天の御父や地球創造のことを教えるすばらしい数々の記録について話した。長老は、モルモン経には旧約聖書に見出されると同じ記録が含まれていることを彼らに説明した。また、彼らナバホの先祖は神の御子イエス・キリストを知っており、その上イエスがお生れになったときに3日間昼が続いたという1つのしるしがあったことを彼らに話した。

キリストが十字架にかけられたときもしるしが人々に与えられた。3日間の暗黒と大きな破壊があり、地の全面が変わった。後に、よみがえられたこの同じイエス・キリストはアメリカの地の先祖を訪問なさり、彼らにいかん生きるかをお教えになったのである。イエス・キリストは民の間にキリストの真の教会を組織なさった。

こうした後、イエス・キリストは立ち去られたが、再び地球に来ると民に約束をされた。若い宣教師は幾年の後、民は教えを忘れ、大変よこしまになったと説明を続けた。多くの戦争があり、とうとうニーファイ人はレーマン人に打ち破られて、現在のインディアンはこれらレーマン人の子孫である

ことを話した。

宣教師たちはジョセフ・スミスのことをインディアンに話し、どのようにしてイエスと父なる神が現われたもうたかを語り、イエスが真の教会は地上になく、教会を再び回復するためにジョセフ・スミスを選んだと言われたことを話した。宣教師は、これらのことが真実であることを知っており、モルモン経は真実の記録であって真の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会は地上にもう一度回復されたのであるということを示した。

モルモン経の話をしている時、インディアンの家族は熱心に聞き入った。指導者の老人は特に興味を持ち、絶えずうなずいていた。宣教師が話し終えたとき、その指導者は興奮して「ヒヒ ベーホジン エル ヒヒバネ」と言った。それは「私たちも知っています。それらのことは私たちの歴史と同じです」という意味の言葉である。

ナバホ語で続けて、彼らの話が真実であり、それが少しばかりの違いこそあれ、本質的には民の間に代々伝えられた彼らの歴史物語——ナバホの歴史——と同じであると指導者は宣教師に告げた。彼らの父祖はそれを金版や金属版上に記録したのである。しかしナバホの歴史物語は種族にとって非常に神聖であるため、彼らに多くを語ってもらうのは困難であった。彼らが宣教師に語ったいくつかの話は、創造、洪水、山上の雲、槍か大きな剣を持った1人の男（ある人は彼が白人であったという）に導かれたよろいを着た民との戦争や論争についてである。ディネ ナアキッサアドォア ヌダカイ（12弟子）の話はまったく同じである——12人の人たちが私たちの天父のことを話すために民の間に出て行った。これら12弟子の名について年老いたナバホ人に尋ねたとき、彼らの名は伝統的に大変神聖であり、冬期にのみ語られたのであると教えられた。

宣教師たちはインディアンの伝説のあるものを聞いて微笑をもらした。というのは、多くの間違った教義や作り話がそれらの内に入りこんで、話がゆがめられていたからである。

若い宣教師たちにとって何と感激的な経験であろうか。彼らは若いナバホ人の語ることを聞いたときに、非常に豊かに主のみたまを感じた。そして彼が自分の民の歴史すなわちインディアンの伝説を語り、いかにインディアンの話がモルモン経中の話と「手を携えて」歩むかを語ったときに、数時間はまるで数分のように経過した。誠にそれは「亡霊の声のように地から出る」声である。（イザヤ 29：4）

それによってかれらは自分らの先祖のことを知り、またその先祖がイエス・キリストのことをよく知っていたことも知るようになる。

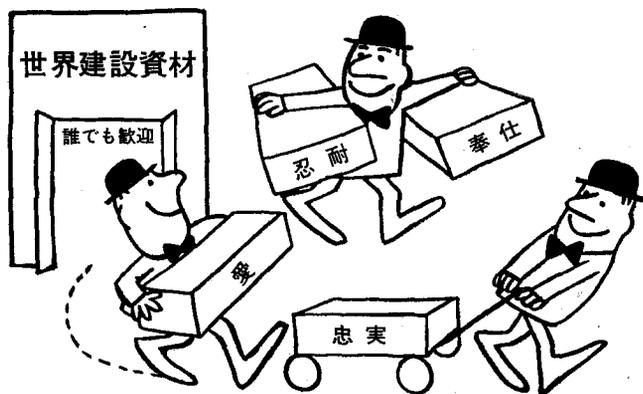
宣教師たちはホーガンを出て、ほこりの多い小道を小型トラックのところまで下って行くとき、まだ主の「みたま」をまわりに感じていた。そして互いにこれら選民の間で働くことはすばらしい機会であると話しあった。予言者に約束されたように、いつかはインディアンが偉大な国の指導者として正当な地位を得るであろうということを彼らは知ったのである。

「そしてイエス・キリストの福音がかれらの中に宣べ伝えられるから、それによってかれらは自分らの先祖のことを知りまたその先祖がイエス・キリストのことをよく知っていたことも知るようになる。

そこで、かれらはこれが全く神から与えられた恩恵であるのを知って喜び、心の暗が次第に消えてまだ多くの代がたない中に皮膚の色が白くて喜ばしい民になる。」(Ⅱニーファイ 30:5~6)

教育は人を助ける

教育こそすべてである



レッスンの前に

かなり捜す手間のかかることかも知れませんが、あなたはこれを行うことができますし楽しいことでしょう。同一寸法の2枚の絵——1枚は世界地図で、もう1枚は子供か若人のグループの絵——を用意して下さい。絵の裏面同志を貼り合せ（ゴム糊を使って）乾かします。そして簡単なはめ絵遊びのように切って下さい。厚い紙かボール紙が2枚必要になります。1枚の上ではめ絵をし、もう1枚は絵をひっくり返すときにばらばらにならないようにおおうためのものです。（前もって一度やってみるならば、もっとよいレッスンができるでしょう）

レッスン

生徒たちを1つのテーブルの周囲に集めて、グループの人の絵を組み合わせるように頼みなさい。1枚の厚紙の上に集めるようにします。彼らは裏面が地図であるとわかるでしょう。しかしそれが何であるかを教えてはいけません。絵を組み終えたら、注意深くそれをひっくり返して、世界地図を見せます。

(前に練習しなかった人は、していたらよかったですと思うでしょう)

生徒たちと一緒に次のことを考えて下さい。

1. 若い人々は世の中とどのような関係がありますか？
2. 若者を立派に育てなさい。そうすれば世の中は万事よくなるであろう。というとき、私たちは何を考えているのですか。
3. 世の中を皆にとってよりよい場所にする助けとして、私たち1人1人は何をすることができますか。

レイおよびジャネット・バルムフォース

今月の前奏曲

Darwin K. Wolford



6月の聖句

大人日曜学校

また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。

(ヨハネ 8:32)

子供日曜学校

神は自分のかたちに人を創造された。

(創世 1:27)

系図探究の新方式

ジャイアント (GIANT)

方式について



1968年10月、教会の半期総大会の際神殿の儀式のために、従来よりも改善された名前を提出する方式が紹介された。この新方式はジャイアント (GIANT) 方式と呼ばれ、Gen-
eological Information and Name Tabulation の頭文字をとったのであるが、さまざまの反響を呼び、またいくつかの疑問を投げかけたようである。ある人たちは、もう会員は系図探究などする必要がないのではないかと質問して来た。この人たちは、系図協会が系図探究に必要な仕事を全部してくれ、自分達は死者の名前が資料として作成されるのを待っていて、作成されたら、その時神殿へ行って儀式を受ければ事足りると思っているようである。

しかし、これは誤解である。ジャイアント方式が採用されるにあたり、教会の教義はなんら変更されず、単に手続きの変更があっただけである。すなわち、より早く神殿の儀式に名前を提出できるように手続きを簡易化したのである。系図探究は今まで通り、会員の手で続けて行かなくてはならないし、資料として作成した名前は、会員が家族としてまとめなければならない。ジャイアント方式により、今までよりも資料作成が容易になりはしたが、決して会員の、先祖や親戚の死者を探究する責任がなくなったわけではない。

教義によれば、末日聖徒はすべて自分の先祖や親戚の死者を探究し、その人達のために神殿での儀式が済んだかどうかを確かめる義務があると教えられている。これにより、この地上にあって生存していて、証明できる家族はすべて、救いにあづかる身代りの儀式を受けることができるのである。

ジャイアント方式は聖徒達からこの責任をなくしてしまうものではない。系図協会は記録作成プログラムの範囲内で、教会の記録あるいはその他の記録から個人の名前をひろい出すような援助はできる。けれども、この作業は、私達がしなくてはならない偉大な業のほんの始まりにすぎない。ジャイアント方式により、新たに採用された個人記入フォームによって、教会員はこの系図協会資料作成プログラムに援助できるようになった。この死者のための神殿儀式は、義しい生活をして資格を備えた者が行なわなければならない。また、個人の名前を家族の記録に記載する仕事は、聖徒たちが自分で行なわなければならない。全提出名が証明され、儀式が行なわれたかどうかを確かめるには、この方法しかない。

系図探究に必要な情報をジャイアント方式による資料に期待することはできない。聖徒たちが自分で探して、家族としての記録を作成しなければならない。これは地上の家族と天にいる家族とが結び固められるためには欠くことのできないものである。

全世界の聖徒達は、引き続いて系図探究の仕事に励み、子供達に血縁者のうちで死者のために行う仕事の重要性を教え

るよう望まれている。新方式によれば、この仕事をもっと効果的に行なえることであろう。

生者と死者の救いの教義の根底にある大原則は、死んだ父親と残された子供との鎖をつなぐ際の、親と子(先祖と子孫)の相互依存関係である。神の御計画によれば、子供だけでも親だけでも完全にはなり得ないのである。血縁の死者に代って行なわれるバプテスマ、昇栄に必要な儀式を通じてはじめて必要な関係が保たれる。

ジャイアント方式により、この仕事の迅速化をはかることができるであろう。この方式では、ある死者の記録ができると、家族の記録が完全にでき上って、家族としての儀式を神殿で執り行うために記録が提出されるのを待ていなくとも、個人の記録が作成された時点でその人のための儀式を行なうことができる。もちろん、このようにして儀式を受けた死者も、家族の記録の中に入れられ、家族の記録を完全にするための努力は引き続いて行なわれなければならない。

手続きが変わっても、教義には変更があるわけではない。生ける神の予言者によって啓示された通りである。神権指導者は、自分が管理している定員会の会員がこの系図の仕事を強力におし進めるように、自分に与えられた責任の霊的なたまものと、権能とをよく知る必要がある。ステーキ部長、神権系図アドバイザーの高等評議員、監督、大祭司グループリーダーは、より強力に、また確信に満ちて、死者の救いに関する教義を説かなければならない。

神の王国は急速な勢いで大きくなっており、しかも、しなければならぬ仕事は山積している。死者の救いに関する仕事は救い主の再降臨のために世を備える業である。人の子の再降臨の前に、この救いの業を完全なものにするため、あらゆる手段を講じなければならない。ジャイアント方式の採用は、死者の儀式に必要な記録の提出方法の簡素化を目的としたものであって、このようにすることによって教会のすべての会員が、イエス・キリストによってなされる全人類のあがないと救いの業に手助けができるのである。

福音はもし、人が進んでイエス・キリストを救い主として受け入れるなら、また従順であるなら、単に救われるだけでなく昇栄への道を歩むことができると教えている。今、この世に生を受けている聖徒は、神のこの偉大な計画を推し進める協力者なのである。

【注】 太平洋地域の記録提出者は「記録提出の手引」(未刊)に挙げた例外に充分注意しなければならない。ポリネシアおよび東洋の人々に関するすべての記録はさらに指示があるまで現在のファミリー・グループ・シートにより提出されるべきである。ジャイアント方式(新しい記録提出方法)に関する指示は、ヨーロッパ人の先祖の名前を「個人記入フォーム」で提出する際には、太平洋地域においても用いられる。

子供のページ

はだかの王さま

ハンス・クリスチャン・アンデルセン



むかし、洋服を新調するのが大好きな王様がいました。自分のお金を全部そのために使っていました。王様は、兵隊たちのことをかまわなければ、げきを見るのも、公園でドライブをするのも好きではありませんでした。自分の新しい洋服を見せびらかすことだけが大好きでした。毎日、一時間に一度ぐらいずつ洋服をとりかえていました。ふつう、お付きの人が王様のことを「ただ今、かいぎにしゅつせきしておられます」と言うようなときに、ここでは「王様は

洋服をきがえていらっしゃいます」と言いました。

王様の住んでいる町はとても大きくてにぎやかな町でした。町には、たくさんの人が毎日やってきました。ある日のこと、二人の見知らぬ人がやってきました。二人ははたおり屋のふりをしていました。そして想像もできないようなすばらしい布の織り方を知っているといいました。色や型がたいそう美しいばかりでなく、身分がふさわしくない人、人に相手にされないようなバカな人の目には見えなくなってしまうというふしぎな性質があると言いました。

「さぞかしすばらしい洋服だろう。もしわたしが着れば、部下の中で誰が身分にあわない位についているかを見つけ出すことができる。ばかな者とりこうな者との区別ができるわけだ。そうだ、そういう洋服なら、わたしのために今すぐにも作らせなければならぬ」と王様は考えました。

王様は二人のはたおり屋に、前もってたくさんのお金を与えて、ただちに仕事にかかるようにいいました。間もなく二人は二つのはたおり機で働いているふりをしました。でも本当は、はたおり機に何もかけていなかったのです。二人はじょうとうの絹と金とをつぎからつぎへと持って来るように言いました。でも二人は全部それらを自分達のふところにしていこんでしまいました。二人は何もかかっていないはたおり機のところで、夜おそくまではたおりのまねをしていました。

「さて、洋服がどのくらいまでできあがったか知りたいものだ」と王様は思いました。けれども王様は、部下の中でバカな者はそれを見ることができないということを考えたとき、本当はちょっといやな気がしました。自分にとっておそろしいものは何もないと信じていましたが、様子を見るために、まず誰か他の者を使いに出したいと思いました。町の人達は皆、うわさの洋服が、どのような特別な力を持っているかを知っていました。そして自分の近所の人がどのくらいバカかを知りたいと思っていました。

「しょうじきな老大臣をおりもの屋に使わしてみよう、彼ならその洋服がどんな風か良く教えてくれるだろう」と王様は思いました。彼はかしくくて、部下の中で彼ほどの者はいませんでした。

りっぱな老大臣は部屋へ入って行きました。二人のはたおり屋が糸もかけていないはたおり機のところではたらいているふりをしていました。

老大臣は「おやおやっ！」と思って目を大きくひらいてみました。何も見えないではありませんか。しかし、大臣は大きな声では言いませんでした。

二人のニセはたおり屋は、もっと近くにくるようにいいました。そして「型といい、色といい、美しいと思いませんか」とたずねました。それから二人は何もないはたおり機をゆびさしました。かわいそうに、老大臣は目をますます大きくあけてみましたが、何も見えませんでした。実さい見える

ものなんて何もなかったのですから。

何ということだろう。わたしはそれほどバカなのだろうか。そんなことは思ってもみなかったし誰も知らないはずだ。わたしの身分はふさわしくないのだろうか。いいやどんなことがあっても布が見えなかったなどとは言えない。

「さあ、何かおっしゃることはございませんか」とはたおり屋の一人がたずねました。「これは素晴らしい！」と老大臣はめがねごしにのぞき込みながら言いました。「なんと素晴らしい型と色だろう！王様にも大変けっこうだとお伝えしよう」と言いました。

「とてもうれしいです」と二人は言って、二人は色に名前をつけ、へんてこな型の説明をくり返しました。老大臣は王様のところへもどった時に同じことをくり返して言えるように、よく聞いていました。そして、帰ってから王様にそのことを伝えました。

さて、はたおり屋は仕立て代としてもっとたくさんのお金と絹と金がいるといいました。二人は何もかも自分達のふところにしまいこんでいたので、はたおり機には一本の糸もかかっていませんでした。二人は前と同じように何もかかっていないはたおり機のところではたらくまねをしていました。

王様は間もなく、布がもうすぐできるかどうかを見るために、もう一人の部下を使いに出しました。彼がいくら目をこらして見ても、はたおり機のほかは何もなかったの、何も見えませんでした。

「すてきな布地でしょう」とはたおり屋は本当は何もないのに、ほんとうにあるように指さして、素晴らしい型の説明をしました。

「わたしは自分がバカでないことはわかっている」と部下は思いました。「わたしの仕事がふさわしくないから見えないにちがいない。でもこのことを誰にもしらせてはならない」ですから、彼は見えもしない布をほめ、王様には「まったくすばらしいです」と伝えました。

町の人々は皆、そのごうかな布のうわさをしていました。王様は、まだはたおり機にその布がかかっているうちに、自分の目で見たい、と思うようになりました。王様は、そこに行ったことのある部下もおともといっしょに二人のずるいはたおり屋のところへ行きました。二人は布も糸も使わずに一生けんめいに織っていました。

「立派でございましょう」と、まえにそこに来た部下が言いました。「あなた様のお力をしてなら、どんなに素晴らしい型と色であるかがおわかりになれますことでしょう」それから二人は何もかかっていないはたおり機を指さしました。そうしたの、きっと他の人にもその布地が見えるだろう、と思ったからでした。

「これはどうしたことだ」と王様は首をかしげました。何も見えない。ひどい！わたしはバカなのだろうか。わたしは王としてふさわしい人間ではないのだろうか。もしそうだとしたら、わたしにとってそれほどひどいことはまたとあるまい、実に美しい「気に入った。」と王様は大きな声で言いました。

そう言ってから王様は何も見えないとは言えないので、た



だ満足そうになつて何もかかっていないはたおり機を見つめていました。

王様の部下たちは、目を見開いて見てみましたが、やはり何も見えませんでした。しかし、王様と同じように「本当にお美しい」と言って、もうすぐはじまる行列のときに最初にその立派な着物をお召しになるようにと提案しました。

「素晴らしい！」口々にそう言って、部下たちは皆驚くほどにうれしそでした。王様は、はたおり屋の二人に、「はたおりの騎士」と書かれた大きなメダルを渡しました。

行列の行なわれる予定の日の前の晩、はたおり屋は、ずっと起きていて、少くとも16本以上のろうそくの火をともしていました。人々には、二人が王様の新しい服を作るのに一生けんめい働いたということがよくわかりました。悪がしいはたおり屋は、はたおり機から布をおろすまねをしました。二人は、大きなはさみでそれを切るまねをしました。糸を使わずに針でぬうまねをし、とうとう、「さあ、洋服ができあがりしました。」と言いました。

王様は高貴な騎士たちと一緒に来ました。二人のはたおり屋は、まるで何かを持っているかのように片方のうでを持ち上げ、「ごらん下さい。これがズボンです。これが上着です。これがマントです。くもの糸のように軽いのです。何も着ていないような気がいたしますが、そこがこの洋服の良いところなのです」と言いました。

「さようで」と騎士たちも口をそろえて言いました。けれども、本当は何もなかったの、何も見えませんでした。

「皇帝陛下、お召物をとっていただけましたら、わたくしたちが、新調いたしました洋服をこの大きな鏡の前で着せてさしあげます」と二人のはたおり屋は言いました。

王様が洋服をぬぐと、はたおり屋たちは新しい洋服を一つ一つ王様に着せるふりをしました。二人は王様の胸をつかみました、それは何かをしめている

ように見えました。すその長い服を着て、王様は鏡の前で何回も回ってみました。

「なんて素晴らしいのだろう。なんておにあいなんでしょう。」と皆が口々に言いました。「なんて素適な型なんでしょう。色もいいし、立派だ！」とほめたたえました。

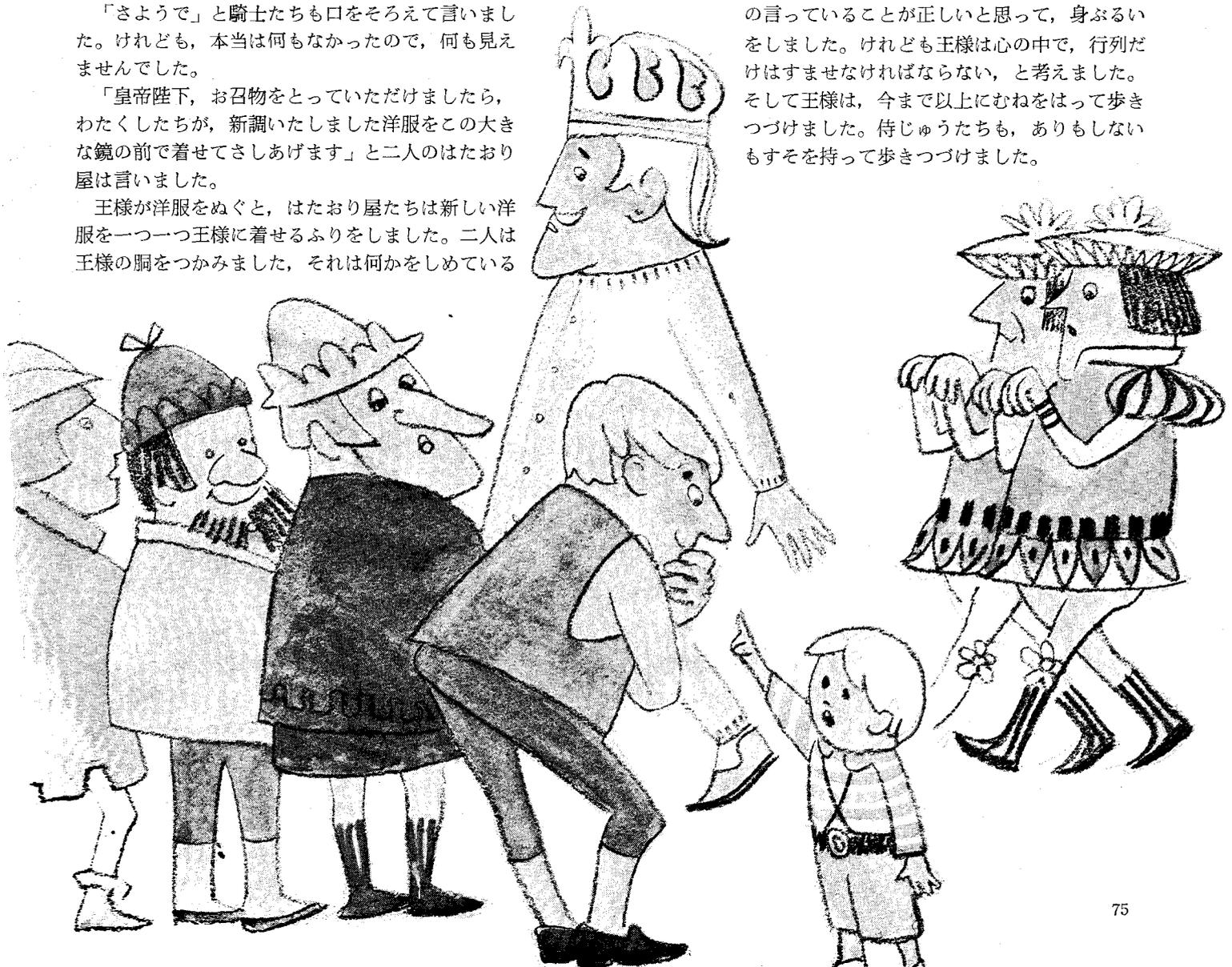
「さあ、できた。わたしにピッタリではないかね」と王様は言いました。それから、自分の新調の素晴らしい洋服が、よく見えるようなふりをして鏡の前で回ってみました。すそを持つ役の侍じゅうたちは、まるでマントをひろい上げるような格好をして床の上で手さぐりをしました。それから何かを持ち上げるようなようすをしました。誰にも自分たちが何も見えないなどは思わせませんでした。

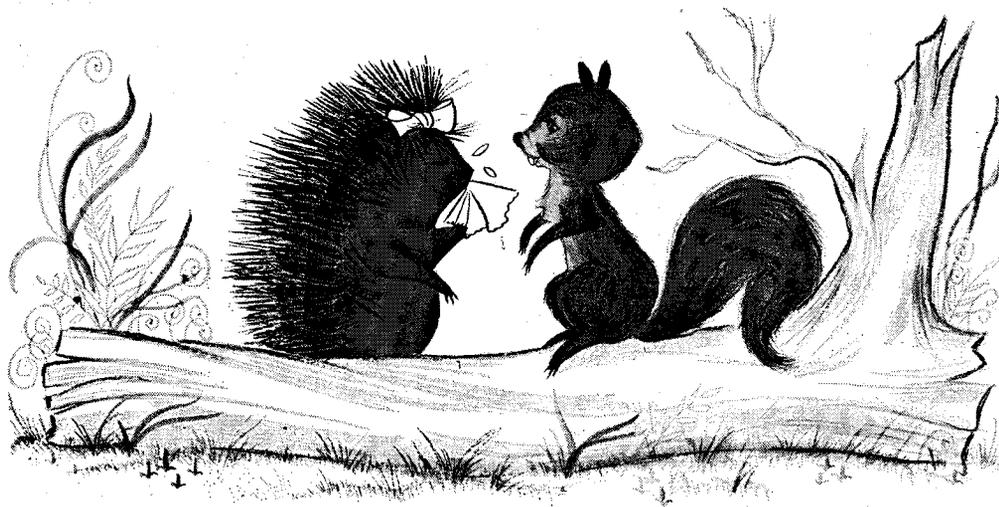
王様の行列をはじめ、通りにいる人たちは口々に「ほら、みてごらん。王様の新調された洋服はなんて素晴らしいのかしら。マントのもすそはなんてきれいなんでしょう。なんとおにあいなんでしょう」と言いました。

誰一人として自分が何も見えないことを知らせようとはしませんでした。もしそんなことをしたら、自分がその身分に合わないとか、さもなければ、バカだということを表わすことになってしまうと思っていたからです。

「でも、王様は何も着ていらっしやらないよ」とうとう小さな子が言い出しました。「王様は何も着ていらっしやらない」とみんなもあわてて言いました。そして王様はその人達の

言っていることが正しいと思って、身ぶるいをしました。けれども王様は心の中で、行列だけはすませなければならない、と考えました。そして王様は、今まで以上にむねをはって歩きつづけました。侍じゅうたちも、ありもしないもすそを持って歩きつづけました。





やまあらしの ポリーちゃん

マージョリー・ハミット・ガードナー作

や まあらしのポリーちゃんはパーティーがきらいでした。どうぶつたちは、いつもフォークダンスをたのしんでいましたが、だれもポリーちゃんとおどろうとはしませんでした。

「あのどうぶつさんたちは、わたしのチクチクするとげがこわいんだわ、わたしもあなたのようにやわらかな毛だったらいいのになあ。わたしのとげはとてもいたいの。だからもうパーティーになんかいかないわ！」とポリーちゃんはおともだちのリスのコロちゃんにいました。

「でもいかなきゃだめだよ、どうぶつたちはみんないくんだから。」とコロちゃんはいいました。そして、なにかかかんがえてから、ふさふさとしたしっぽをふりました。「わかった、きみのとげをカールしてごらんよ。そうしたらやわらかくなるさ！」

「どうやってとげをカールするの？」とポリーちゃんはききました。「にんげんさまは、かみのけをクリップでまくんだよ」コロちゃんはまたしっぽをふりました。「クリップのかわりにちいさな木のえだをつかえばいいよ。おかの上にいえばがあるんだ。さあいっしょにいて、とってこよう」

とてもたかいおかでした。ポリーちゃんはすこしのぼるごとに、いきをきらしました。あまりつかれてしまったので、ふたりがちょうじょうについたとき、ポリーちゃんは、よこになってやすまなければなりません。ちょうじょうからポリーちゃんはたにをみおろすことができました。おうちまでのみちがずつつづいて、みちをよこぎったところにおりのようにつめたいいけもみえました。

コロちゃんが一人でなにかもしなければなりません。そしてとうとうこういいました。「クリップにつかうちいさなえだがこんなにあつまったよ。つぎは、きみのとげをぬらさなきゃだめだ」

ふたりがおうちにつくとすぐに、ポリーちゃんはつめたいいけにはいりました。そして、いそいでいけからとびでました。ポリーちゃんはコロちゃんにえだをわたしました。「あなたがカールしてくれなくてはだめよ。わたしは自分のしていることが見えないし、それにせなかまでとどかないもの」

コロちゃんがとげを一にぎりつかむと、とたんに「いたいっけがしちゃうよ！」と悲めいをあげました。「わかってるわ」とポリーちゃんはさびしそうにいいました。「きみをたすけてくれる人はみつからないよ。カールするほうほうをかんがえなくては」とコロちゃんがいいました。

「もうくたくたよ」とポリーちゃんはぶつぶついいました。

「わかった✓」なんかいもしっぽをふってからコロちゃんはいいました。「にんげんさまはにんじんをたべると、かみのけがカールされるって知っている。とげだつてきつとカールできるさ」「にんじんはきらいよ。でもたべてみるわ」とポリーちゃんはいいました。

ポリーちゃんは、あさもおひるもよるも、それにおやつときまでもにんじんをたべました。15にちかんもたべつづけた。

まいあさ、じぶんのとげにさわってみました。まだ、まえとおなじように、まっすぐでチクチクしました。それどころか、15にちめのあさには、いままでよりもとがっているようにかんじました。「こんどのパーティーはみっかあとにせまっているわ。でも、わたしいかないわ」とコロちゃんにいいました。

「にんじんのカールっていうのはどう？」とコロちゃんがたずねました。

「にんじんのカールって、それなあに？」「にんげんさまがつくるものなんだ。にんげんさまは、セロリやにんじんをこおりみずのなかでカールするんだよ」「わたしはにんじんでもセロリでもないのよ、わたしはでぶのみにくいあざみでしかないんだわ」とポリーちゃんはいいました。

コロちゃんはどこかへかけていってしまいました。ポリーちゃんは、パーティーのあさまでコロちゃんにあいませんでした。その日のあさ、コロちゃんのかみにつつんだものをもってきてそれをポリーちゃんにわたしました。

でもポリーちゃんはつつみをあけませんでした。コロちゃんは、にんじんをもってきてあげたのです。ポリーちゃんはわらっていいのかわからないか、ないていいのかわかりませんでした。

「おばかさんなコロちゃんね」といいました。

コロちゃんはいそいでしごとをはじめたのでおへんじするひまもありませんでした。まずはじめに、にんじんのはっぱをとって、すてました。つぎに、とがたはで黄色いところをきって、ほうをつくりました。それから、そのほうを、こおりのようにつめたいいけのなかにおとしました。しばらくしてから、コロちゃんはきれいなきんいろのカールをたくさんとりだしました。

ポリーちゃんはおどろいてなにもいえませんでした。

「じつとたつて」とコロちゃんはいうと、ポリーちゃんのとげにカールをつけました。そして、まもなくポリーちゃんのとげはぜんぶカールできました。

「パーティーにいくわ！」とポリーちゃんはうれしそうにいいました。パーティーで、どうぶつさんたちは、とげをカールしたポリーちゃんとおどろうと、れつをつくってじゅんばんをまきました。

コロちゃんは、じぶんのぼんがまわってきたときに、「もうにんじんはたべなくてすむね。ただ、それを着るだけでカールされてしまうんだから」といいました。ポリーちゃんはこのこしていいました。「いままでは、すぐつかれてしまったのに、こんやは77かいもおどったけどまだピンピンしているわ。これもみな食べたにんじんののおかげよ。」

ポリーちゃんがこういっただけでとてもよいことでした。なぜって、パーティーでみんながのまなければならなかったものを当ててごらんさい。

それはね、にんじんのジュースだったんですもの！



この世でなければ永遠に

十二使徒評議員

ハロルド B. リー

扶

助協会中央管理会の要請によりこの原稿を書くにあたって、私は、幾度となくお話した2つの実話を引用して始めて行きたいと思います。

その一、かつて献身的な信仰の厚い働きをした宣教師の葬儀の席で、私は最近帰還した宣教師として話をしました。彼女は利己的なところがなく、献身的で、大きな功績を残した教師であり、正しい原則を説いていました。彼女は不治の伝染病で亡くなりました。死が近づいた時、彼女は自分が死んでから行なわれる葬式のやり方をこと細かに書き記しました。それで、葬式の出席者は全員、私も含めて、彼女の家族、愛した人々、親友など彼女の短かかった人生に深くかかわりのある人々が選ばれていました。

私は彼女が宣教師であった時のことを思い出して話をしました。伝道に出発する前、彼女はBYUを卒業後中学校の教師をしていたのですが、祝福師は彼女に特別な祝福を与えました。一つを除いて、特

別な祝福はすべて実現されていました。その一つを私はとても気にしていました。私の考えでは、彼女ほど、キリストを信じている者らしい生活をした人はいないと思っていたからです。では、どうしてその約束が果されなかったのでしょうか。祝福師を通して与えられた主の祝福は、彼女がイスラエルの母となるであろうという約束でした。彼女は結婚しませんでした。ですから、現世では、母になる特権が与えられませんでした。私は葬式でこの話をして、答えを得られないこの質問を「なぜか」と考えました。

その二、精神が錯乱した父親と母親が、面接を求めて来ました。痛む心を和らげ、信仰を活気づけるような光と理解が得られないでしょうかと言ってきました。軍から簡単な文の電報が来て、息子が悲劇的な死をどげたというのでした。彼は伝道から帰るとすぐに、兵役に召集されました。入隊する前、彼

も祝福師の祝福を受け、息子や娘を与えられるであろうと約束されました。祝福師の言葉は靈感を受けていたのでしょうか。両親の知る限りでは、息子は「主に生き」信仰が厚くて、約束されたすべての祝福を受ける資格があるのに、どうしてこの約束は果たされなかったのでしょうか。

先ほど例にあげた私の話に続いて、前にステーキ部長をしていた祝福師が最後の話をしました。彼は聖典の随所に見られる2つのきわめて重大な原則を述べました。「人の生活」は、現世の誕生で始まり、現世の死で終るのではないという教義を話しました。祝福師が靈感あふるる祝福を述べる時、その祝福は現世だけでなく、永遠にわたる生活に及ぶのです。「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる」(Iコリント15:19)と使徒パウロは書いています。このすばらしい真理を理解できないために、私たちは「あわれむべき存在」となって、信仰を試されることがあります。死を超越できる信仰を持ち、適切な時に将来を見通して、すべてのことをもたらす神の摂理に信頼すれば、私たちに望みが湧き悲しみはうすらいで行きます。アルマは次のように言っています。「信仰とは完全に物事を知ることではない。それであるから、あなたたちにもし信仰があるときには、まだ見ていない本当のことを待ち望む」(アルマ32:21)

祝福師の説明によれば、この信仰の厚い姉妹は、現世で子供を生む機会を与えられなかったけれども、地上の神殿と主の時に行なわれる神聖な儀式により、両者が合意すれば神の権能によりふさわしい夫と結び固められ、死を超えた子孫を与えられるという約束に従って、永遠に続く結婚生活の聖い結びつきが許されるということでした。

これは、永遠の進歩につながるものです。主は人々に啓示して、この永遠の結婚をし、終りまで耐え忍ぶものは、「各々その頭に結び固められたる如く、

各々最高の栄に進むを得てあらゆる事に光栄を受くべし。その光栄は最高完全の光栄にして、永久にその子孫の続くことなり」(教義と聖約132:19)と述べられています。

予言者ジョセフ・スミスはこの啓示の意味をさらに明確にしています。「この世において、神権の力と権能によりて結婚し、聖霊を穢すことなく耐え忍ぶ者は、日の光栄に進み、子孫を与えられるであろう」(教会歴史記録第5巻P.391)

使徒ペテロが説明しているように主は復活された後、霊界を訪れ、「彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるため」(Iペテロ4:6)に宣べ伝えられました。これを簡単に説明しますと、死んだ後霊界に行って、自分のために主の宮で権威ある者の手により行なわれた身代りの儀式を受け入れる資格ある者たちにとって、この儀式は現世にあって受けたと同様有効であるということです。もし、そうでなければ、主がペテロや時の絶頂の神権時代に王国の鍵を与えられた者に話されたように、「黄泉」の力はイエス・キリストの教会に打ち勝つことでしょう。

「主にあって死んだ」信仰厚き人々のために始められたこの身代りの儀式がなければ、主の贖いの犠牲は前記の例にあげた人々や同じような多くの人々にとって何の意味もなくなるのです。

母になると約束された日を夢見た信仰厚い宣教師の姉妹、子孫の繁栄を約束された信仰厚い息子の両親をあなたがたはかわいそうに思うでしょうが、心配には及びません。主の道により、主の時に、主はすべてを回復なさるのです。

私は、この前、信仰厚い姉妹で、まだ現世で女性の最も大きな望みを果たしていない多くの人々に手紙を書いたことがありました。多少変更しましたが、その一部をご紹介します。

「何年もの間、結婚の機会がなかったあなたは、現在(現世で)結婚の機会がなくとも、もし、主の家に行く資格と準備をしていて、この神聖な原則

(永遠の結婚)に信仰を持っているなら、主は適切な時期に報いを与えて下さいます。祝福が与えられないことはありません。結婚すると祝福を受けられなくなる恐れのあるような、あなたにふさわしくない人と結婚する必要はありません。同じように、結婚する前に事故や病気や戦争で年若くしてこの世を去った女性も、主はあなたの気持をご存知で、主が適当と考えられる時期に、教会でその目的のために始められた神殿の儀式を通じて、報いを与えて下さるでしょう」

予言者ジョセフ・スミスが示現の中で、両親と兄のアルヴィンが日の光栄にいるのを見た話を覚えていると思います。ジョセフの兄アルヴィンは、教会が組織される前、1824年にこの世を去りました。それで、彼がどうして日の光栄にいるのか不思議に思いました。その時、主の声がありました。「この福音の知識なく死ぬる子も、世にとどまりせば、福音

を受け入れしならんあらゆる者は、神の日の王国を継がん。……そは主なる我、人々の働きとその心の望むところによりて、すべてを審かんがためなり」(教会歴史記録第Ⅱ巻P. 380)

アルヴィンに対して、そしてあらゆる人々に対して、この言葉は意味があります。神の王国での昇栄にかかわる神の律法に全力を尽して従って下さい。主は、あなたがたの働きと心の望むことにより審かれ、その報いを必ず与えられます。

毎年の教会の統計を見ますと、男女の数はほとんど同じです。これには、大きな意味があります。これは、単なる偶然の一致であって、科学的理論だけで説明できる事実でしょうか。それとも、すべての若い男女の教会員が、現世あるいは来世で教会内の伴侶を見つけ、永遠の結婚をして、完全な祝福の約束を受けるといふ全知なる神の摂理のゆえでしょうか。

アラスカにおける教会

(286 ページのつづき)

し、アンカレッジに4つのワード部、フェアバンクスに1つのワード部(1967年の大洪水以後二つのワード部が合併しました)、パーマーに一つのワード部、チュギアク、デルタ・ジャンクション、イールソン空軍基地に支部があります。

伝道部の支部および会員数は次の通りです。ジュノー449、ソルデトナ359、ケチカン273、コディアク167、シトカ100、ホーマー93、セワード42、アネット島24、アラスカ地方部の支部358。アラスカ地方部の支部には、離れた地域の会員および、交通事情から集会に集えない会員がいます。アンカレッジに住むハロルド V. ワルサー支部長は、手紙やアイス・ブレイカーという新聞を通じて連絡しています。

多くのワード部や支部は建物を完成し、また、現在建築中です。特にケチカンの礼拝堂は美しいものです。大きな住宅のように建てられています。それは支部が大きくなって、大きな礼拝堂を建てる時に、売やすいように建てたのです。

アンカレッジの南、ケナイ半島は、沖合いに油田

が発見され大いに発展しています。1958年(州が認められる1年前)ソルデトナに最初の末日聖徒の日曜学校が3家族で組織され、1968年7月21日ちょうど10年後には、300人近くの会員がソルデトナ支部の新しい礼拝堂に集まり、十二使徒リブランド・リチャーズ長老の献堂の祈りを聞きました。そして、成長するこの支部の会員たちはすでに、建築の第二期計画を始めています。

コディアクからケチカン、ノームからセワードに住む教会員に出会うと、近代の開拓者といったものが感じられます。天候の急変、昼と夜の極端な時間差(夏は昼が一日のうち22時間、冬は夜が22時間)ひどいみちのりにもかかわらず、聖徒たちは神の王国の建設のため一緒になって働いています。地震による荒廃、高波、洪水による損害を受けても、修繕され、家や礼拝堂が再建されて、人々の結びつきはますます強まるのです。初期の開拓者たちの意気をくじいた事柄が、今日のアラスカに住む人々に連帯感を与え、教会とアラスカの会員に大きな利益と力をもたらしているのです。

証

管理監督

ジョン H. バンデンバーグ

19世紀の初期に近代史で最も意義ある出来事が起こりました。一人の若者が祈りを捧げて神と話をしようとして、家を出て、農場からは見えない森へ曲りくねった道を歩いて行きました。彼は教育も受けておらず、普通の家の農場で働く一少年にすぎませんでした。祈りによって神に近づき、求めていたことが「与えられる」（ヤコブ1：5）と感じていました。

その後くりひろげられた出来事は、前の神権時代にあった神権の鍵とともにイエス・キリストの福音の回復をもたらしたのでした。

この若者、ジョセフ・スミス・ジュニアは、神の大いなる予言者の一人になりました。ジョセフとその使命については次のように記されています。

「主の予言者にして聖見者なるジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり。僅々二十年の短月日に、モルモン経を世に出してこれを神の賜物と力とによりて翻訳し、東西両大陸にてこれを刊行する媒ちとなれり。また世界の四極に至るまで、この書に載せたる完全なる福音を広め、人の子らのために「教義と聖約」なる本書を構成する啓示と誠命並びに他に多くの知慮ある文書と教訓とを世に出せり。また、幾千の末日聖徒を集め一大都市を建設して朽つる能わざる誉と名声とを遺せり。彼は神とその民の眼前に偉大なる生涯を送り、偉大なる死を遂げたり。而して昔主の聖任したまいし者らのほとんどすべてが然ありし如く、彼の使命と事業とを己が血を以て結び固めたり……」（教義と聖約135：3）

ジョセフが森へ歩いて行ってから150年たった今日、末日の主の予言者の働きの実りを見ることができます。

何千人という若者が、また教会全体が、回復されたイエス・キリストの純粹で完全な福音の訪ずれを世の人々に述べ伝えています。

末日聖徒イエス・キリスト教会と予言者ジョセフ・スミスへの神の召の真実性について心から熱烈な祈りをして神に求める世の人々、そしてジョセフ・スミスの後を継いだ人々は、ジョセフと同じように確かに神から答えを得られるであります。

世の人々のように、教会の若人であるあなたがたは、回復された福音の真実性について聖霊の証を得るように努力しなければなりません。証は自動的に与

えられるものではなく、証は「飢え渴く」時に与えられるのです。これは、受動的に欲しいというのではなく心から得たいと望むことを意味しています。

教会初期の十二使徒であったパーレー・P・プラットは、モルモン経が真実であることを心から知りたいと思ったことを次のように書いています。

「私は、熱心にそれ（モルモン経）を開き、その扉の頁を読んだ。そこには、モルモン経の発見と翻訳に関して幾人かの証人の証が載っていた。そして、順番にその内容を読んだ。食事をするのがおっくうになり、食欲もわかず、夜になっても眠れず眠ることよりも読む方を選び、まさに一日中読んだ。

「私が読んでいる間、主の『みたま』が私の上であり、自分が生きていることを理解し、知っていると同じようにはっきりとこの本が真実なものであることを知った。いわば私の喜びは頂点に達し、人生でどんな悲しみ、犠牲、苦勞を払っても得られないような喜びを受けた」（パーレー P. プラットの自叙伝 P. 37）

福音の真実性の証を本当に得たいと思う者にとって、その方法ははっきりしています。最初に、主は私たちが勤勉に福音を勉強するよう求めておられます。オリバー・カウドリへの話の中で主は勤勉に勉強することの大切さを明確にしておられます。「見よ、汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり」。

「されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しければ汝願わざるべからず……」（教義と聖約 9：7～8）

主が指摘しておられるように、福音を絶えず勉強することは、証を得るために必要欠くことのできないものです。福音の勉強により信仰を確立し、証を強くするのは、使徒パウロは、信仰は「事実」（ヘブル11：1）に基づき、勉強は事実を証明すると言っています。

福音の勉強とあわせて、個人的な証を得るのに二番目に大切なことは、福音に従って生活し、戒めを守ることです。救い主はこのことに関し、次のように述べられています。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」（ヨハネ 7：16～17）

ニーファイ人の予言者アルマは、人々にチャレンジを与えた時、同じようなことを言っています。「しかし、あなたたちがもし目をさましてふるい立ち、その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためしてみるならば、たとえ信じようとする望みを起こすだけでもよい。しかし、私の言葉の一部分でも受け入れるほどの信仰ができるようになるまで、この望みを育ててゆけ」（アルマ32：27）

もし、証を受ける準備をしようとするならば、戒めに従うことが前提となります。この準備の大切さは、レーマンとレ

ミュエルによくあらわされています。彼らは、天使を見、その話を聞きましたが、準備ができていなかったため、このすばらしい経験も二人の人生に何の影響も及ぼしませんでした。

証を得る第三番目の条件として、予言者ジョセフと同じように、私たちは謙遜な祈りによって天父に近づくかなければなりません。ジョセフ・スミスが見出し、何千という人々も確信しているように、次あげる主の言葉は真実です。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願ひ求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」（ヤコブ 1：5）

福音を絶えず勉強し、福音に教えられている原則に従って生活をして、回復された福音が真実であることを確信できるよう神に祈り願ひ求めるならば、答えが与えられた時、それが主から来たものだということがはっきりわかるに違いありません。

多くの人は、証とはなにか劇的な出来事とか心が大きく動かされるような出来事があることと得られるものだと思っています。しかし、たいてい証は福音が真実だと感じた時にもてるものなのです。人に説明できないようなことから証を得たとしても、それは真実です。主は「汝にその正しきを感じしむ」（教義と聖約 9：8）という方法で祈りの答えを与えて下さると述べておられます。

この力と真実性について、ある時、主はオリバー・カウドリに次のように言われました。「誠にまことにわれ汝に告ぐ、汝もしこの上の証詞を得んと欲せば、これらのことの真理を悟らんとして汝が心の中にわれに向いて呼びし夜のことを深く思うべし。われ汝にそのことに就きて心安かれと告げしにあらずや。汝、神よりの証詞より大いなる証詞をいづくに得るや」（教義と聖約 6：22～23）

教会の青年男女にとって、福音の証を得ることは、一番の目的であるに違いありません。証ほどすばらしく大切な財産はありません。デビッド・O・マッケイ大管長は青年時代、心から証が欲しいと思った経験を次のように話しています。

「私は若いころ、人が人生で得られる最も貴重なものは、この業が神聖であるとの証であることに気づきました。私は証を心から得たいと望んでいました。証を得ることができればその他のものはすべて無意味に見えるだろうと思いました」（インブループメント・エラ1962年9月 P. 628）

私は教会の若い男女の皆さんが、少年ジョセフ・スミスや若きデビッド・O・マッケイのように、イエス・キリストの福音が真実であることの証を何よりも得たいと望み、その望みを持ち続けて、ついには主が述べられているように、証を得ていただきたいと思います。

日常生活で決断を迫られる時、あなたに将来の見通しと目的を与えるものこそ福音に対する証なのです。証は、あなたの神権の責任、教会での活動、家族との交わり、男女交際など、生活のあらゆる面でより大きな意味と目的をもたらします。



世のわずらいをはなれて

ウィラード・ミット・ロムニー

初めてこの伝道部へやってきた頃、私はいろいろな伝道の仕事に自分の時間をさいている宣教師のことを聞きそれがよく理解できませんでした。しかし今、伝道に対する私の考えは大きく変わっています。来る日も来る日もチラシを配り、人々に話しかけモルモン経を読んでもらおうと努める、はじめ私はその仕事が伝道のすべてだと思い、それを自分に要求される義務のように感じていました。私は自分が労して働いていることの枝葉末節しか見ておらず、伝道全体の本当の姿をつかんでいなかったのです。しかし今は違います。伝道は他の何にもまして私自身を形成する大きな力となりました。伝道こそ成功を勝ち得るための最も偉大な訓練の計画です。人々に耳を傾けさせ、自分の言葉を理解させようと、ただそのためだけに若者がすべての時間を費すという機会はただ伝道だけです。

私はこの伝道で人生の意味、自分はなぜここにいるのか、これからどこへ行こうとしているのかをやっと知りました。そして自分が今まで福音について何と無知だったことかと驚

きました。確かに多くの事柄は知っていましたがその真の姿をつかむことができなかったのです。

私は福音が幸福の知らせ、良きおとずれであると話すのを聞きましたが、それがどうしてなのか理解できませんでした。福音が人類に与えられたことの喜びをはじめて感じたのはこの伝道地においてでした。

また、成功という言葉の真の意味、日の栄の世界に入るにふさわしくあること、自分の召しと責任を確実に果たすことの本当の意味を知ったのもこの地においてです。ここでは物質的、世俗的な事柄は第二義のことであり、より大切なことは何であるかを知ったために、私はいままで経験したことのない幸福を感じています。

キリストは我々がまず神の国を求めるなら、他のすべてのことはそえて与えられると約束なさいました。私はそれが真実であるとはっきり知っています。

私はまだたった21才ですが、L'Eglise de J'esus Christ というフランスで最も重要な組織のリーダーの一人になりま

した。ほかのどこで、どんな時に、今持っているような責任と権能を受ける機会が再びあるでしょうか。また、いつ一切のエネルギーと時間を神にささげることができるでしょう。おそらくこれこそが伝道についての最も素晴らしいことだと思います。伝道はあらゆるものをすべて唯一の目的、すなわち神に仕えることに集中する時間なのです。家庭にいる時は、学校、経済、結婚、子供、他人のおもわくなどに心を用います。しかしここではただ一つのことだけに心を向けるのです。

家では何か気に入らないことがあればそれから逃げることはできましたが、ここではそれができません。いやなことにも立ち向い、状況に順応し、性格的にあわない人々とも仲良くやっていかねばならないのです。昔の自分だったら逃げ出したかもしれない事柄を克服できたと自覚するのはなんと素晴らしいことでしょう。

家では自分が正しいことを納得させようとし、そうしても



らえなかった時は、そのまま、他に納得してくれる人を探せばよかったのですが、ここではそれは簡単にいきません。求道者と出会うことは本当に少ないので、その人をあきらめるまでは実に死にもの狂いで闘うといってもよいほどに力を尽します。ですから多くの困難に打ち勝つ時には、喜びのあまりに胸が裂けるかと思うほどです。

もっと立派に責任を果たそうと努力し、困難に取り組み、そこから成長するという毎日が続いています。証を述べ、レッスンを教え、求道者が改宗するようにとひざまずいて祈ることもたびたびです。会員の問題について神の導きを請うとき、教えを説くために人を動かしたもう聖霊を身近かに感じています。そしてまた病める人の頭に十二使徒と共に自分の手を置いて彼の祝福を通訳することもあります。大会説教のラジオ放送を聞いて感激し、本国では交わることのできないような人々との間に友情を結ぶとき、その友情が本当に深いので、別れるときはまるで家族との別れのように悲しい気がするのです。



6時に起床し、疲れて寒さに震えながら、ただ神にのみより頼んで人々のために生きること、またこの世のことに何らわずらわされることなく人々の成功を喜ぶこと、これらのことを私がかもし伝道にこなかったらどこで経験できたでしょうか。

しかもこれはまだほんの始まりにすぎないことを充分承知しています。伝道はまっすぐな道を知るための良い手段です。もし私とその道を変わずに歩み続けるなら、私の喜びは二倍三倍になり、永遠に増してゆくでしょう。永遠の結婚、教会の奉仕、子供たち、この世界と自分の国に対する奉仕。それらの喜びを一人一人に与えたもうほど主は深く我々を愛して下さるのです。

(ニクソン内閣の都市住宅開発長官ジョージ・ロムニー氏の子息で21才のミットは、彼の伝道地フランスから両親あてにこの手紙を書いた。編集者はこの手紙を許可を得て転載した。)



神権の職

リチャード O. カウアン

神 権についての啓示で、主は、あらゆる職はメルケゼデク神権に従属すると言われた。(教義と聖約 107:2~5 参照)

職は、神権の権能につけ加えられると言うよりも、むしろその権能のために神権に依存するということを意味する。それぞれの職は独自の職掌を有し、主の啓示にあらましが述べられている。

神権の職(これから詳しく述べる)と、教会の職の区分が考えられる。人が神権を授けられると、その人は、破門による以外はこれを剥奪されることはない。⁽¹⁾ 神権の職は按手聖任によって授けられる。一方、教会の職は、按手任命によって与えられ、永久的なものではなくて、その人が解任されるまでのものである。⁽²⁾

監督の職は神権上の職でもあるし、同時に教会上の職でもある。今、大祭司の職にある人が監督の召を受けた場合を考えてみる。この人はまず神権の監督の職に按手聖任され、その後で教会の職である監督、またはそのワード部の管理大祭司に按手任命されるのである。その召から解任された後で、他のワード部に所属することになった場合、新しいワード部で、また監督としての召があれば、その人はあらためて按手聖任を受けなくともよく、ただそのワード部の監督として按手任命を受ければよい。

大管長会

大管長会を構成する副管長達は、その時の教会の大管長を助けるために、副管長として按手任命される。そのため、大管長の死去に際しては、副管長達は自動的に解任になり、大管長会は完全に解消する。

大管長会を構成するのは基本的には3人であるが、教会の歴史を見ると、そのつど、必要に応じて補充されている。1837年にジョセフ・スミスは副管長を3人以上任命しているし、⁽³⁾ 1873年にブリガムヤングは、5人の副管長を任命しているし、⁽⁴⁾ 現代では、マッケイ大管長は5人の副管長を任命している。

アロン神権の職

アロン神権の各職 個有の義務は教義と聖約の 20:46~59 にあらましが述べてある。各職の責任が累積されることに注目しなさい。神権者の職がより高いものになっても、それまでの職に付随していた責任は解除されないで累積されていくのである。どの職にあっても、教会員を強めるのが、主要な

義務であることを心にとめなくてはならない。

アロン神権の各職の管理的な立場にある監督の義務についても教義と聖約に記されている。(58:17, 18, 68:14~24, 107:68~75)

メルケゼデク神権の職

イエス・キリストは教会の頭である。主の指示のもとに予言者、または「大神権の大管長」がある。(教義と聖約107:64, 65参照)「大神権の大管長」のもとに十二使徒評議員、またはキリストの特別な証人がいる。(教義と聖約107:23参照)

これらの管理系統のもとに、大管長と十二使徒会を支えるステーキ部が設けられる。ステーキ部の組織の長になる人は「常任部長」と呼ばれる。(教義と聖約124:134, 135参照)教会幹部の組織と同じように、各ステーキ部には、ステーキ部長を助けるために12人の高等評議員が任命されている。この12人は「常任高等評議員」と呼ばれる。(教義と聖約107:36参照)このステーキ部の管理系統のもとに「常任教職者」と呼ばれる長老達がいる。(教義と聖約124:137参照)以上の事柄からわかるように、ステーキ部の組織は、大管長会と十二使徒会の組織に似ている。

「常任教職者」としての長老の最大の責任は各地方で、霊に関する事柄を執り行なう(教義と聖約124:137, 107:11, 12参照)ことであるが、しかし、時によっては宣教師として旅に出るように召される場合もある。(教義と聖約84:111参照)十二使徒と同じように、七十人もキリストの「特別な証人」と呼ばれ、「異邦人と全世界の人々」に対する特別な証人となるために召される。(教義と聖約107:25参照)七十人は、長老や大祭司とは違い、必要ならばいつでも旅に出て、「巡回福音伝道者」として(教義と聖約107:97)あるいは「巡回長老」として(教義と聖約124:138~139)伝道のために働くよう備えていなければならない。大祭司は、教会の組織を管理するように召された「常任部長」である。(教義と聖約124:133~135)「常任」という言葉はその人の責任がまず何よりも、ある特定の地にあるということの意味し、これは「巡回」という言葉が、ある人の責任が、地域にわたる場合に用いられるのと非常に対照的である。

ステーキ部の「常任高等評議員」(教義と聖約124:133~135)と対照的に、十二使徒会は「巡回高等評議会」を構成する。(教義と聖約107:34)これらの職にある人は、皆「pastor」すなわち、「shepherd」(牧羊者)と呼ばれてもよ

いであろう。ついでながら、ほとんどの国語では「pastor」と「shepherd」は同義語である。

祝福師

祝福師という言葉は英語の「patriarch」(家長という意味もある)の訳語であるが、この言葉は、啓示に述べられている「evangelical minister」に対して名付けられたものである。(教義と聖約107:39及び、この節の脚注ウを参照)この呼び名は、福音の意味の「evangel」からきたものである。従って、祝福師は、聖霊に感じて述べる祝福によって個人人の生活に福音の原則をあてはめる人である。

定員会

定員会は、会員が、福音を实践し、また、各人が聖任されている神権の職の義務をよく果たせるように備えさせるために組織されている。(教義と聖約107:89参照)教義と聖約に、定員会の構成に必要な人数が載せてある。職が上につれて定員が倍数関係になっていることに注目しなさい。(附表を参照のこと)

神権者皆各々その義務を覚え

附表の示すところによれば、教会が組織された1830年には神権のすべての職が回復されていたわけではなかった。生ける予言者が啓示をもって教会を導いている間は、回復は引き続いてあることであろう。最近の神権コリレーションや十二使徒会地区代表の任命を見ていると特にこの感を強くする。

主は、与えられた召を「全力を尽して遂行する」人に偉大な約束をされている。(教義と聖約84:33~41参照)神権に関する啓示の最後に、主は言われた。

「この故に、今や神権者皆各々その義務を覚え。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし。」(教義と聖約107:99)

脚注

- (1) ジョセフ・F. スミス インブループメント・エラ 11巻 P.456
- (2) ハロルド・B. リー チャーチニュース 1961年8月26日付 P.8~10
- (3) 教会歴史記録 第2巻 P.509 教会史誌 1873年9月3日付
- (4) 教会史誌 1873年8月8日付

神 権 の 職

アロン神権 1829年5月15日 バプテスマのヨハネによって回復 (教義と聖約 13章, 教会歴史記録 第1巻 P. 39, 40)

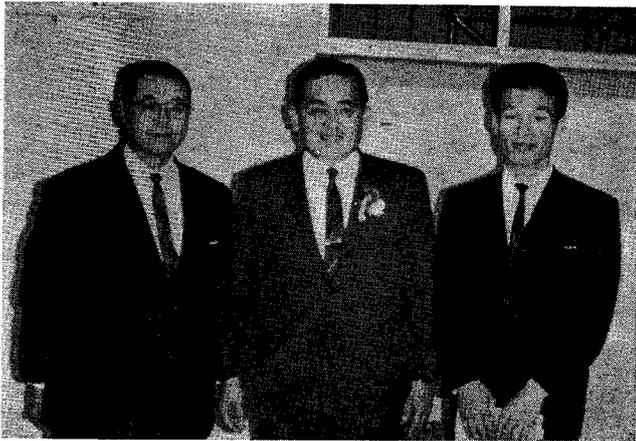
職	働 き	定 員 会	回 復	関 係 聖 句
執 事	警告を与え, 教える, この世的な義務(20:56)	12人 (107:85)	1830	テモテ(I) 3:8~13
教 師	常に教会を守護する (20:53~58)	24人 (107:86)	1830	エペソ 4:11 コリント(I) 12:28
祭 司	説き, 教え, 釈く, バプテスマを施す, 聖餐式を執り行なう, 按手聖任する。(20:46~52)	48人 (107:87, 88) 会長は監督	1830	ヘブル 10:11 使徒行伝 6:7
監 督	イスラエルの判事 (58:16~18, 107:72~74) この世的なことを執り行なう (107:68)		1831年2月4日 (41章参照)	テモテ(I) 3:1~7 テトス 1:7~9

メルケゼデク神権 1829年5月15日~6月30日の間に回復 (教会歴史記録 第1巻 P. 40~42)

長 老	常任教職員 (124:137) 霊に関する諸事を執り行なう (107:12) 按手聖任・聖霊を与えるため按手をする, 集会を指導する (20:38~45)	96人 (107:89)	1830年4月6日	使徒行伝 14:23 ヤコブ 5:14 ペテロ(I) 5:1
七 十 人	巡回長老 (124:139) 福音を説き, 異邦人と全世界の人々の特別な証人となる (107:25)	70人 (この中に7人の会長を含む) (107:45)	1835年2月28日	ルカ 10:1
大 祭 司	常任部長 (124:134) ステーキ部・ワード部の管理 霊に関する諸事を行なう (107:12), この世につける諸事 (107:71)	定員は決められていない ただしステーキ部内の全大祭司で構成する。	1831年6月3~6日	ヘブル 5:1, 2, 6 7:11 (双方共, 名前だけふれている)
祝 福 師	聖霊に感じて祝福を述べ福音を伝える祝福師たる教職者 (107:39~100) 父より息子に伝えられる。選ばれた人々の子孫に附与される。アダムの時代より定められた (107:40~41)		1833年12月18日	使徒行伝 21:8
使 徒	全世界におけるキリストの御名の特別な証人(107:23) 巡回高等評議員, 教会の他の職員を按手聖任し, これを整理整頓する (107:58)	12人 (107:23~24)	1835年2月14日	エペソ 4:11~14 マタイ 16:19
大神権の大管長	全教会の統轄 (107:91) 神権の統轄 (107:65~67) 予言者, 聖見者, 啓示を受くる者 (21:1, 107:92)			
教会の大管長会 すなわち 大神権の大管長会	大管長会を構成 (107:22) 教会と神権の統轄(90:13, 112:30) 十二使徒会の管理 (107:33) 神の王国の鍵を保有 (81:2)	3人の管理大祭司 (その他, 必要に応じて任命されて会を助ける)	1832年1月25日 (大管長会は1833年3月18日に組織された)	エペソ 2:19~21
教義と聖約から引用				新約聖書から引用

伝道部長メッセージ

「日本人だからこそ」



日本沖繩伝道部 第二副伝道部長 神崎良太郎

三月に開かれた伝道部長会の席上、岡崎伝道部長は大変胸にこたえることを言われた。「私は日本人には大和魂というすばらしい精神があると思っている。にもかかわらず、ときとして『このプログラムは私たちには無理だ、できない。アメリカと日本とは事情が違うことを考慮すべきだ』との声を聞く、そのたびに残念に思う。教会のプログラムはアメリカのためにのみつくられたものではない。神さまがすべての国のために、祝福を与えんとしてつくられたものである。困難はあってもよき果実を得るために、私は『日本人だからこそやる』といった気概があって欲しいと思う。それでこそ本当の日本人ではなからうか」

教会のプログラムはどれをとってみてもすばらしい祝福をもたらしてくれる。だが、私たちの受け入れ態度によっては単に負担となるのみならず、害とさえなる。プログラムにたいする正しい理解の欠如、ヌルマ湯のごとき、消極的プログラムの運営は百害あって一利なしである。まして、最初から拒絶するようではそれまでである。

先日、たまたま万国博覧会の鉄入れ式に参列するために来阪されていた丹羽兄弟と渡辺副伝道部長にお会いしたが、「死してのち止む」といかないまでも「倒れてのち止む」ほどの激しい情熱をもって神さまの業に励む気持が欲しいというご意見をお聞きした。このとき、私は今日のすばらしい日本の基礎を築いた明治時代の人々をフト思い起こし、何が明治維新をもたらしたかを考えた。多くの要素があげられようが早く世界の一流国にしたいという強い欲求、そのためには

身を投げうってでもという激しい情熱、意気、そして、よいものは何でもドンドン取り入れ消化していった進取の精神とたくましが、明治を動かしたもっとも強烈な原動力ではなかったかと思う。

ところで、誰しも神の国建設という点からすれば日本は未だ開拓期であることを理解している。今や日本は世界のなかに切り開いていった明治時代に相当するときかも知れない。もし、そうであるならば、明治人のごとく、つねにたくましく意気と情熱をもって多くの問題に自から対処し、よいプログラムを積極的に取り入れ、日本の国を更に靈的にすぐれた国にするため、倒れてのち止むほどに働くことは是非必要であろう。

さて、新しいプログラムということであるが、日本沖繩伝道部長会はプライマリー・チルドレンズ・ホスピタル（ここではとりあえず身障児病院と称しておこう）に関するプログラムを新たに採り入れることに決定したのでこの紙面をかりてお伝えする。このプライマリーのプログラムは世界には貧しくて治療もうけられぬプライマリーの年令に属する児童が数多くいるが、彼らに治療を受けられる機会を与えるとともに、プライマリーの子供たちに、五体健全であることに感謝する機会を与え、かつ不幸な人たちに心から手をさしのべることがどんなに大きな喜びと満足をもたらすかを知る機会を与えんとするものである。この身障児病院の起源は1911年にまでさかのぼるが病院の施設が現在の形になったのは1966年6月のことである。この病院は上記の主旨のもとにプライマリーの役員たちが懸命に働いて貯めたお金、教会の内外を問わぬ個人的寄付、そしてプライマリーの子供たちが誕生日ごとに年に応じて差し出したお金によって建設され、運営されている。病院はユタ州にあるが、不幸な子供たちは世界から集まっている。

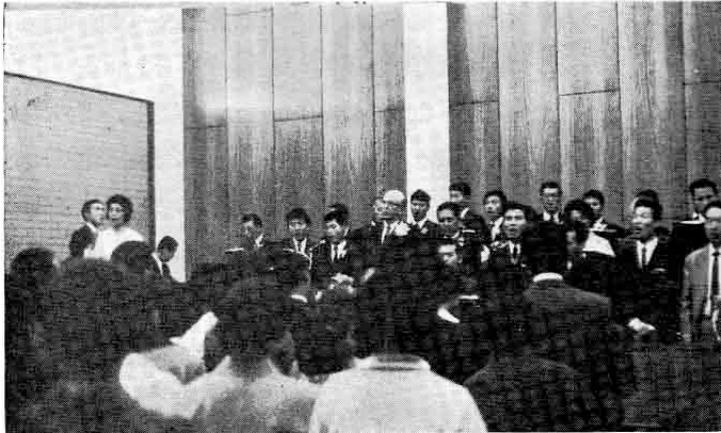
教会の方針によると伝道部の参加は要請されていない。しかし、このプログラムのすばらしさを聞いた伝道部はスウェーデンを始め、多くの伝道部が自発的に参加していることから当伝道部も是非参加したいと考える。支部長、プライマリーの役員はこのプライマリー・プログラムの主旨をよく理解されて、子供たちに誕生日にはよるこんで自分の年に5円をかけた金額を差し出すようにすすめてほしい。また、大人の方も自から率先して模範を示されたい。いつの日にか日本からも該当者を送ってこの神さまのプログラムから祝福を受けるようにしたいと思う。詳しくはプライマリー・リーダー6月号をご参照されたい。

＊ 岡町支部献堂式

4月21日 ベンソン長老、伝道部長ご夫妻、豊中市長をおむかえして、献堂式が喜びの中でとり行なわれました。

教会堂に集った人々のかわす握手は固く、話手の言葉には感謝と喜びの涙があふれていました。こつこつと、労苦をおしまず働いて下さった建築宣教師達、岡町支部の皆様ありがとう。

今、教会堂は立派に完成し、神に捧げられ、数々の思い出を胸にベンソン長老の献堂の祈りを聞きいられたことでしょう。



ベンソン長老

＊ 結 婚

- 2月11日 京都支部、川口高司兄弟と亀谷テル子姉妹が(写真右)
- 3月21日 阿倍野支部、阪本頼彦兄弟と西宮支部、戸井修子姉妹が(写真左)ご結婚なさいました。



＊ 建 築 <支部紹介> 柳井支部

私達は皆んな元気に頑張っています。<写真>左は会員一同、右はチェスター監督ご夫妻と建築宣教師たち



＊万 国 博

ベンソン長老新聞に載る

モルモン教会は、1830年、ジョセフ・スミスによって設立されたキリスト教の一派。正しくは「末日聖徒イエス・キリスト教会」といい、現在は米国ユタ州ソート・レーク市に本部がある。

世界各地の信徒は約300万人、うち日本には1万1千人ほどいる。

この教派はいつも万国博出展に熱心で、日本万国博にも約1億円を投じて「幸福の探求」をテーマに「モルモン館」を建てる。モルモン教会には「予言者」デビッド・O・マッケイ氏のもとに「12使徒」がいる。22日のモルモン館起工式に来日したベンソンさんは、その12使徒の一人。

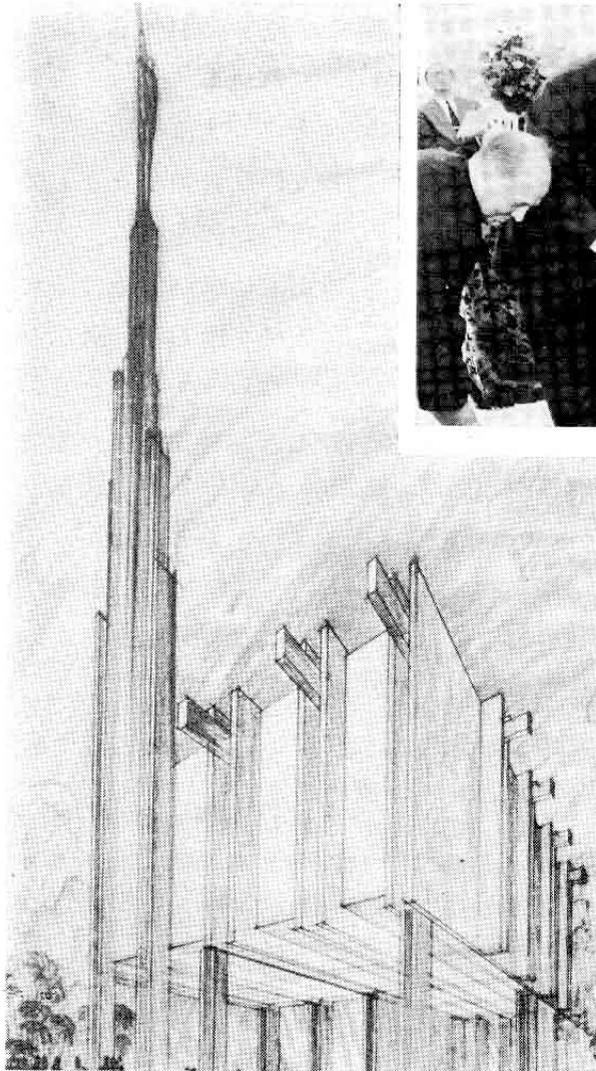
アイダホの農協役員をふり出しに、ルーズベルト大統領の農業諮問委員、そしてアイゼンハワー政権の8年間、ずっと合衆国農務長官をつとめた大物である。ミシガン州立大学名誉農学博士をはじめ実に11の大学の名誉博士号を持っている。

たいへん厳格な教派で、酒、タバコはもちろん、お茶もコーヒーもダメ。起工式でベンソンさんに花束を贈ったエスコート・ガイドもミニスカートはやめ、ふりそで姿で出かけた。

「万国博に出展するのはわれわれの信仰をみなさんに理解していただきたいからです」と。中略。

一緒にやってきたフローラ夫人は1956年に良妻賢母の全米ナンバー・ワン「マザー・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。子供6人、孫は20人もいる。 4月26日 毎日新聞「エキスポ人脈」より





EXPO' 70 万国博覧会

モルモン・パビリオン

4月22日

ここ大阪の地は好天に恵まれ、万国博会場「モルモン・パビリオン」建設用地にベンソン長老をはじめ、多くの来賓の方々をお迎えして、くわ入れ式がとり行なわれました。

こうして、人類の進歩と調和をテーマとした日本万国博覧会会場内に私達すべての人々が求めている「幸福の探求」をテーマとしたモルモン・パビリオンが着工の運びとなりました。真の宗教こそ幸福の探求に役立つと努め、イエス・キリストの福音は耳を傾ける全ての人々に与えられることを実証する機会が与えられたのです。

私達はこのパビリオンの建設工事の安全とこれを通して耳を傾ける人々を心からお迎えしたいと思います
<写真上、左から2人目ベンソン長老>



旭川支部献堂式の祈り

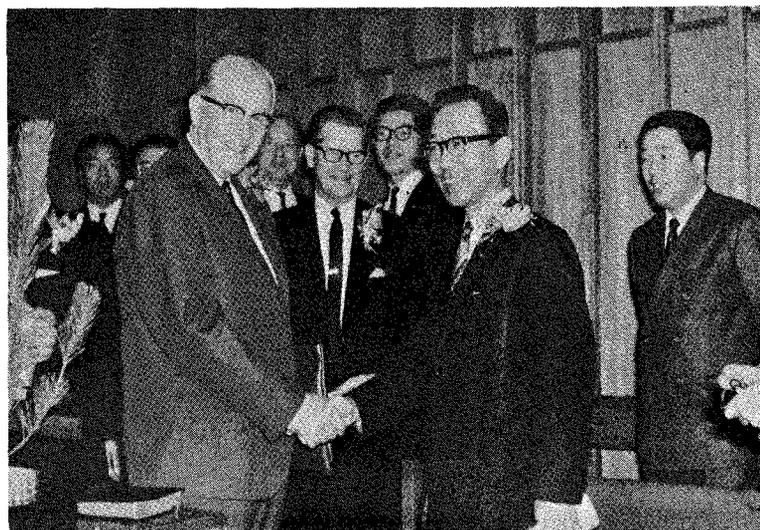
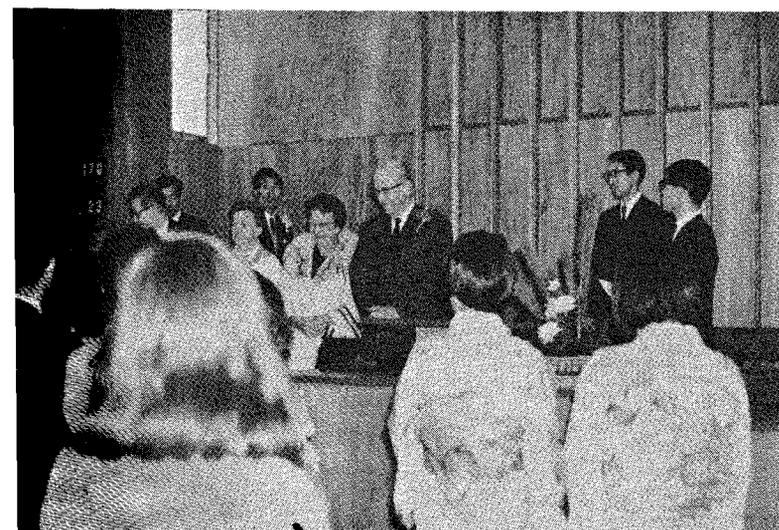
十二使徒評議員会会員

エズラ タフト/ベンソン

天に在し、全知にして永遠に我らの霊の父なる神よ、汝の御子、救い主、贖い主の御名によりて、我らはこの美わしき夕べ汝に祈りを捧げ、汝の聖き御座に近づかんとするものなり。天の御父よ、汝の見給う如く、我らは汝の息子、娘として、また地における汝の教会の会員として、この美わしき、新しき宮居に集いしものなり。父よ、我らは与えられし真理の証詞を持ち、汝の教会と王国の会員にして、与えられし神権の祝福に与るを感謝し奉る。汝の御意に随いて汝は汝の御子と共に聖なる森にて少年予言者に現れ給いしことに感謝し奉る。また、天使を遣わし、地上に重要な鍵を回復せしめ給いしことに感謝し奉る。ペテロ、ヤコブ、ヨハネおよびバプテスマのヨハネの施し給うにより、聖なる神権を回復せしめ給いしことに感謝し奉る。新しき聖典にして、聖書の神聖なることと主イエス・キリストの聖き使命を証詞するモルモン経を与え給いしことに感謝し奉る。完き永遠の福音を近代に回復せしめ給いしことに感謝し奉る。御父よ、我らが汝の子供として恵みと祝福を受けんがために、汝の偉大な教会が地上に再び、豊かな祝福をもたらすプログラムと共に完き形にて回復されしことに深く感謝し奉る。汝の王国の指導者として高貴なる者、ジョセフ、スミスを起し、更に、予言者ジョセフの時代から今日に至るまで汝の教会の大管長として数々の後継者を立て給いしことに感謝し奉る。御父よ、汝の年老いし予言者にして偉大な僕デビッド・O・マッケイ大管長を我らに与え給いしことに感謝し奉る。願わくは、汝が汝の御霊によりてこの偉大な僕を生き永らえさせ、その召しを遂行させ、導きを与え給うように。いと高き位より低きに至るまで汝の王国にて委任と指導の働きをなす者をことごとく祝福し給え。神権定員会にて奉仕の業に携わる者、教会の補助組織にて奉仕の業をなす者、母や妻らの手によりて汝の業をなす婦人の組織、扶助協会を祝福し給え。扶助協会の人々の潔さと家族に対する献身と夫および神権に対する支持に感謝し奉る。老いたる者にも若き者にも福音を教える日曜学校の与えられしこと、若人の間でレクリエーションと共に重要な文化および靈的活動を遂行するMIAの与えられしこと、我らの子供に訓練と祝福を授ける初等協会の与えられしことに感謝し奉る。教会の偉大な教育機関、特に宣教師制度の与えられしことに感謝し奉る。宣教師が我らと我らの先祖を見出し、福音の知識を与えしことに感謝し奉る。父よ、願わくは教会のあらゆる機関および部を祝福し給え。

我らがこの偉大なる日本伝道部の業に出で立たんとする時、この地に、汝の業が栄えるよう乞い願ひ奉る。汝の管理指導者ならびにその助けをなす者、彼に助言をなす者、役員、ゾーン・リーダー、地方部長、支部長、またすべて汝の業をなす者、および宣教師一人一人が靈感と導きを受け会員たちに祝福を与え、彼らの約束に忠実ならんために汝の僕らを祝し給え。願わくは、汝の僕らが、主の予言者より示されしあらゆる会員は宣教師なりという責任とチャレンジを受け入れ、御業が広まり、伸展せんことを。御父よ、我らにこの偉大な国家が与えられしこと、また偉大な人々が住みしことに、彼らの霊の活力と忠実なる生活と習慣に感謝し奉る。御父よ、この国家を祝し給え。この国家の長を祝し、導きを与え、汝の御前に常にへりくだり、汝の導きを求めるよう祝し給え。国の長を助ける者を祝し、この国が自由を維持し、人々が繁栄を続けるよう祝福を与え給え。そして、人

々が汝の御前にへりくだり、汝の音ずれを聞きし時に、人々は完全に、また謙遜に祈りの心を持ちて調べ、その神聖なることの証詞を受けることができるように祝し給え。父よ、この美わしき市のこの建物の建立されし地域を祝福し給え。市長および職員を祝福し給え。彼らに知恵と識別の御霊を与え給え。願わくはこの偉大な市が栄え、この地に住む人々が回復された福音の精神を知り、音ずれを聞き、それを受け入れる機会をもたらし給え。御父よ、この地方部の特にこの支部の会員達を祝福し給え。支部長と彼と共に働く者および会員一人一人を祝福し給え。彼らの家族を祝し、義しき道へ導きうるよう祝福を与え給え。天に在します父よ、特に、この美わしき建物の建築にあたり、時間と資力と能力を捧げし者たちを祝福し給え。天の窓を開きて、彼らに祝福をあふるる如く与え給え。天父よ、我らは今やここに集い、この建物を汝に奉献することの限りなき喜びと特権と祝福に感謝し奉る。さらば、聖なる神権の権能と主イエス・キリストの御名により、この美わしき建物を、土台からかき石に至るまであらゆる部分、すなわち、壁、屋根、ならびにすべての備品、設備、およびこの建物の建てられし土地を神聖なる目的のため、主なる汝に奉献し奉る。父よ、願わくは、我らのこの捧げ物をとりて、風雪の損傷よりこの建物を守り給え。この建物が幾年月にもわたりここに建ち、汝の子らの信仰、誠実、献身、および忠実の記念碑となるように乞い願ひ奉る。そして、ここに集うすべての人々が汝の御霊の力を感じられ、悪魔の力がこの建物の敷居をまたぐことのなきように。ここに來たる者が真理の御言葉を聞き、そして共に礼拝し、快い兄弟愛を養うことができるように。天父よ、我らはこの建物を汝に献堂するにあたり、この捧げ物を受け入れ給うよう乞い願ひ奉る。さらに我らは汝と汝の目的と誓いに我らの生命を再び捧げ、全心、全力、全霊、全精力を尽して福音に生き、戒めを守り模範となり、世に汝の王国と目的をすえるため全力を尽さんとするものなり。終りにあたり、心から謙遜になり感謝の気持と共に我らはこの建物を奉献し我ら自身をも捧げ奉る。主イエス・キリストの御名により祈り奉る。 アーメン。



子供が問いはじめる時に

リチャード L. エバンズ

人は、子供に問われた時に自分の知識がいかに少ないかを知る。ものを尋ねる子供の正直な白紙の心は、我々の知らないことを明るみに出し、心の奥底まで鋭く見抜くこともしばしばである。子供は知りたいと思い、我々は彼らに返答をする。種はどうして大きくなるの？なぜ寒い？暗くなるのはどうして？心がときどきするのはなぜ？私が動いているのはどうして？なぜ？なにを？あなたは知っているのでしょうか。一度答えることで子供は満足せず、いつも次の「なぜ？」が続く。思っているよりもはるかに少ししか知っていないという事実を知る我々みなにとって、人生は探究である。何が二つの細胞をあわせ、わけて、人を生かしているのでしょうか。記憶はいかにして働くのか。身体に自ら癒える知恵を与えたのはだれか。動物に本能を与えたのはだれか。水が凍って膨張するのはなにによってか。（もしそうでなかったとすれば、世界は確かに違ったことであろう）あらゆるものがそのように存在しているのはなぜか。我々は発見し、観察し、自然の力を用いることを知る。法則の働くありさまを見る。我々は言葉でそれを語る。しかし、究極の答え、心、目的、あらゆるものの起源やそれを動かす何者かについて多くを知らずに……。比較してみれば、うわべの知識は結局表面をなでることであって、我々はただ神の与えたもうた能力や事実を使用しているだけである。ある賢い人が言った。

「人類は創造主が知っておられないものを何一つ発見してはいない」

次のことがそれをよく証明している。すべてのものに造り主、執行者が在りまして、まさに生きておられること、造り主は道すじをたどって創造の業を続けられ、春が来て季節が続き実りを刈ること、生命が大小様々の障害にもかかわらず、目的と計画に従って続きゆくこと、いかに知識を誇ろうとも人の想像のきわめ尽し得るところはないということなど。信仰と敬けんと尊重の伴う謙遜は、我々みなに似つかわしい。子供が問いはじめる時に、人は自分の知識の少なさを知るのである。

1. ハロルド B. リーの用いた言葉

聖徒の道

1969年6月20日発行

振替口座 東京76226番

発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話(442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間1,000円(外国4ドル50セント)

電報受信略号「トウキョウ」マツジツ